



The Jikei University
Graduate School of Medicine
Master's Program in Nursing

2011年度

東京慈恵会医科大学大学院
医学研究科看護学専攻修士課程

シラバス
(授業計画)

目 次

I. 本書の目的と使い方	1
II. 履修の手続き	1
III. 専門看護師をめざす場合	1

教育課程の構造図	2
教育課程の構造図<専門看護師教育課程>	3

<共通科目>

医療者教育論	5
看護倫理特論	6
看護研究方法	7
医療統計学	8
保健医療システム論	9
看護理論特論	10
看護教育特論	11
コンサルテーション論	12
遺伝学特論	13
感染防御論	14
看護歴史学	15
国際医療論	16
看護管理学特論 I	(参照 44-45)

<専門科目>

急性・重症患者看護学	17
がん看護学	31
看護管理学	44
母子健康看護学	55
地域連携保健学	65

<研 究>

看護学特別研究 I	77
看護学特別研究 II	79

I. 本書の目的と使い方

◇本書『シラバス』は、東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻修士課程で、2011年度及び2012年度に開講される授業について、学修内容を説明する目的でつくられています。本書には、授業科目区分（共通科目、専門科目、研究）、授業科目名、担当教員、開講年次、単位数、開講形態、授業概要、授業の進め方、授業計画、成績評価方法、教科書・参考書、受講上の注意が記載されています。

◇本書を参考にして、適切な学修計画（履修計画）を立ててください。あなたが所属する分野の履修基準を『2011年度 学修の手引き』で確認してください。

◇別途配布される『授業日程表（時間割）』で授業日を確認してください。

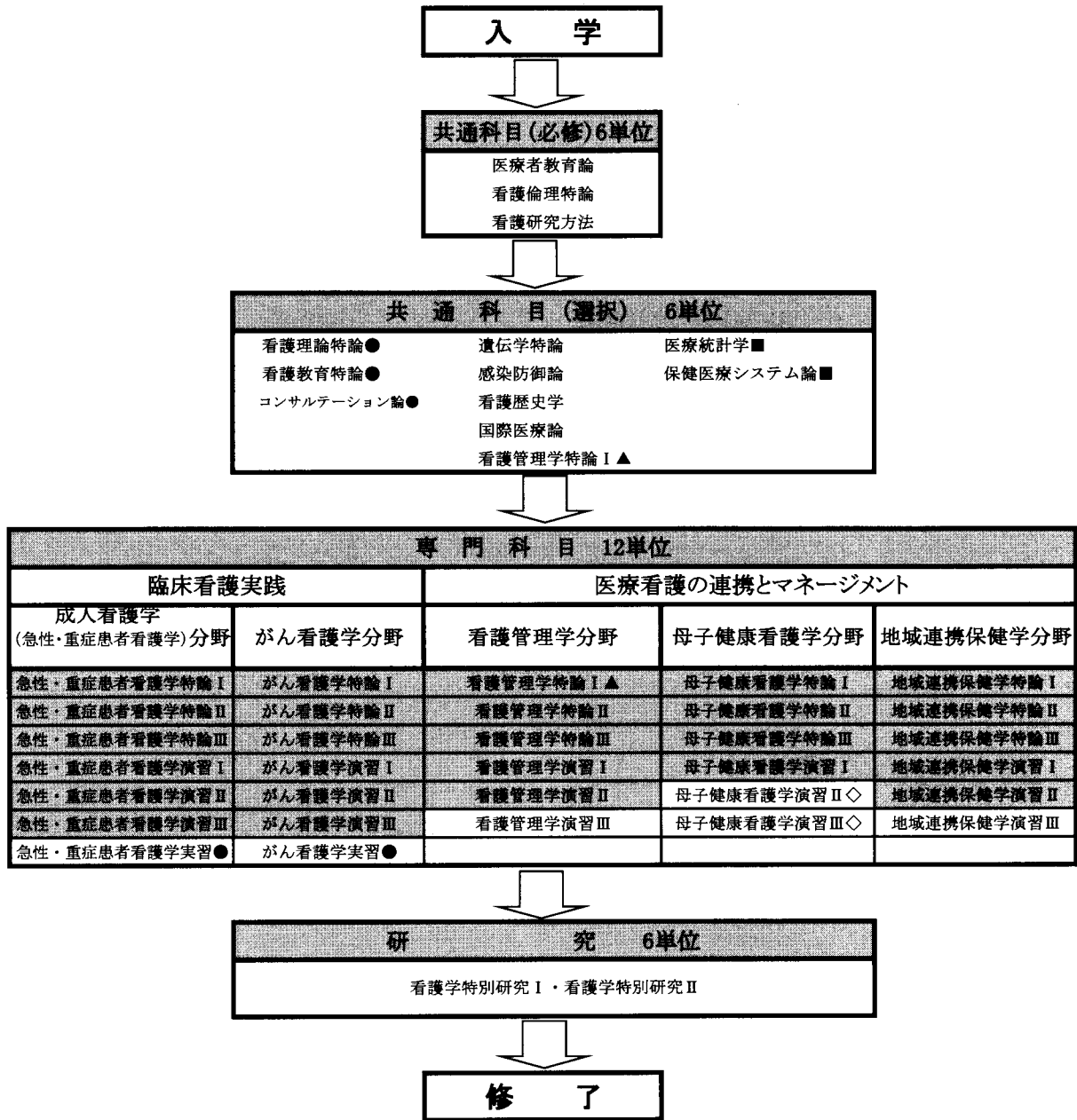
II. 履修の手続き

◇科目を履修するときにはかならず履修登録をしなければなりません。4月にオリエンテーション・ガイダンスを受けた後、指定の期日内に履修登録をしてください。

III. 専門看護師をめざす場合

◇成人看護学（急性・重症患者看護学）分野及びがん看護学分野で、専門看護師をめざす場合には、『2011年度 学修の手引き』の「教育課程の構造と教育内容」をよく読み、履修科目を選択してください。

Ⅱ-2 教育課程の構造図 〈全体〉



単位取得において、原則、専攻分野以外の演習科目取得は可能です。

●：各分野の必修目を示す。

●：専門看護師を目指す場合は選択必修。(共通科目(選択)からは2科目選択する)

■：看護管理学分野、母子健康看護学、地域連携保健学を専攻するものは必修とする。

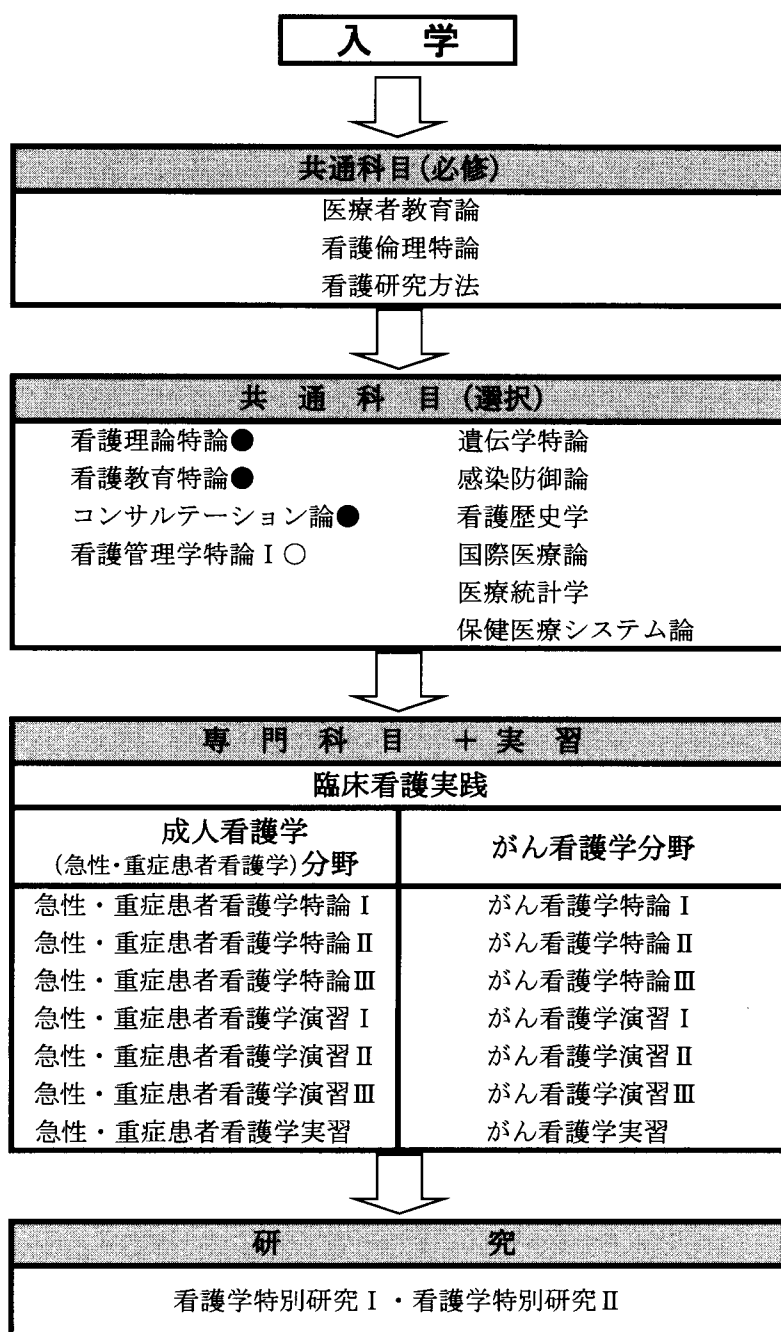
◇：母子健康看護学分野専攻学生は選択必修科目のうち、演習ⅡとⅢにおいては、どちらかを選択する。

▲：看護管理学分野の看護管理学特論Ⅰは共通科目の選択科目とする。

(注)共通科目において、履修希望状況等を考慮して、閉講する科目もある。

Ⅱ－３ 教育課程の構造図

< 専門看護師教育課程 >



●：専門看護師を目指す場合は選択必修とする。（共通科目（選択）からは2科目選択する）

○：看護管理学分野の看護管理学特論Ⅰは共通科目（選択）とする。

(注) 共通科目において、履修希望状況等を考慮して、閉講する科目もある。

共 通 科 目

科目名 : 医療者教育論	開講学年 : 1年次
英文名 : Education for Partnership in Medical Team	開講学期 : 前期
担当教員 : 櫻井 尚子 (科目責任者)、栗原 敏、福島 統、薄井紀子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 高度の看護実践者あるいは研究者として、適切な学生指導や後輩指導が行えるようになるために医療者教育についての基本原理を理解することを目標にする。

授業の進め方 : 講義、グループ討議

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	医療チームにおける看護師の役割と責務	櫻井尚子
2		
3	生理学研究者としての研究姿勢と臨床医学との協働	栗原 敏
4		
5	医療チームにおける医師の役割と責務－白血病治療における現場から－	薄井紀子
6		
7	グループ学習の理論 グループダイナミクス グループ学習の方法を知る。実際に World Café を行い、グループ学習 (テュートリアルなど) の原則と学習者観察に必要なグループダイナミクスについて知る。 (博士課程と共修 : 大学1号館7階実習室)	福島 統
8		
9	学習理論 (1) 学習理論 (2) 行動主義、社会的構成主義、状況論という学習理論の歴史の変遷と、それぞれの学習理論に基づいた教育実践について解説する。 (博士課程と共修 : 大学1号館7階実習室)	福島 統
10		
11	成人学習理論 他者主導型学習、自己主導型学習、自己決定・相互変革型学習を中心に、成人学習理論の成り立ちについて解説する。 (博士課程と共修 : 大学1号館7階実習室)	福島 統
12		
13	学習支援、自律性支援 学習効果における内発的動機付け、外発的動機付けの違いを整理し、学習者の自律性支援としての学習支援について考える。 (博士課程と共修 : 大学1号館7階実習室)	福島 統
14		
15	学習評価 学習評価の持つ学習誘導の機能と外発的動機付けとしての学習阻害因子について解説する。学習者の時間軸を考慮したポートフォリオ評価についても概説する。 (博士課程と共修 : 大学1号館7階実習室)	福島 統

成績評価方法 : 出席状況 40%、グループ討議への参加度 30%、レポート 30%を総合して評価する。

参 考 書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 看護倫理特論	開講学年 : 1年次
英文名 : Theories & Researches Nursing Ethics	開講学期 : 前期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、手島 恵、志自岐康子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授業概要 : 看護実践において看護師が直面する倫理的ジレンマや課題を抽出し、高度看護実践者として解決するための倫理的調整能力を培う

授業の進め方 : 講義、グループ討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護実践現場における倫理的課題と CNS の役割について	柿川房子
2	インフォームド・コンセント、患者の意思決定のサポートと倫理的対処のあり方	
3	看護倫理の成立と基本原理、看護倫理綱領と歴史的背景—医療の高度化・複雑化・科学化、患者の権利尊重・保健医療福祉への関心の高まり、情報公開・医療事故情報への対処、教育の高度化	手島 恵
4		
5	看護専門職としての取り組み、責務、離床判断にかかわる倫理的要因—患者、医療者の要因・エビデンス・強制	手島 恵
6		
7	看護実践に関わる倫理的課題への対応 看護師の価値観と法律と倫理、道徳について 看護学における倫理とは、道徳的によい看護師とは、道徳的によい仕事とは	手島 恵
8		
9	看護専門職に求められる倫理規範、倫理的意思決定のプロセス、倫理的意思決定能力と行動力、患者の権利、ケアリング	志自岐康子
10		
11	看護実践場面におけるアドボカシー・倫理的決定と倫理的責務と責任 (実践事例をもとにしたグループ討議)	志自岐康子
12	苦痛の緩和に関わる患者・家族の意思決定と医療者の協同、倫理的対処 看護実践現場における倫理的課題のアセスメント、その対処の考え方	柿川房子
13		
14		
15	看護実践現場における看護研究と倫理的問題、倫理委員会について	

成績評価方法 : 出席状況、グループ活動への参加度、レポートを総合して評価する。

参考書 :

- 1) サラ・フライ (1998) 倫理の概要, インターナショナル・ナーシング・レビュー, 21 (5), 18-30.
- 2) 手島恵 (2004) 編集委員の目 なぜ倫理綱領・倫理指針なのか, 看護, 9月号, 100.
- 3) 小西恵美子, 和泉成子 (2006) 患者からみた「よい看護師」: その探求と意義, 生命倫理, 16 (1), 46-51.
- 4) サラ T. フライ 2002 (2005) 看護実践の倫理 (第2版) 日本看護協会出版会
- 5) アン J. デイビス他 看護倫理を教える・学ぶ-倫理教育の視点と方法 2002
- 6) 看護者の倫理綱領 (日本看護協会、2003)
- 7) ICN 看護師の倫理綱領 (国際看護師協会、2000)
- 8) 平成15年度版看護白書(pp.3-93), 日本看護協会出版会
他、担当教員より事前に提示する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 看護研究方法	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Nursing Research	開講学期 : 前期
担当教員 : 北 素子 (科目責任者)、高木廣文	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 各専門分野における看護実践上の課題を解決するために、適切な方法を用いて研究を行い、さらにその結果を看護実践に活用する能力を身につけることを目標にする。

授業の進め方 : 講義、プレゼンテーション、グループ討議、PCを用いた統計分析

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	臨床看護実践と研究の意義 研究過程の概観と研究方法	北 素子
2	量的研究論文のクリティーク(枠組みと方法)	北 素子
3	質的研究論文のクリティーク(枠組みと方法)	
4	質的研究方法を用いた研究(概論)	北 素子
5	質的研究方法を用いた研究(概論)	
6	質的研究方法を用いた研究(GT法を用いた研究論文のクリティーク)	北 素子
7	質的研究方法を用いた研究(現象学的・解釈学的方法を用いた研究論文のクリティーク)	
8	質的研究方法を用いた研究(エスノグラフィーを用いた研究論文のクリティーク)	北 素子
9	質的研究方法を用いた研究(質的・記述的研究方法を用いた研究論文のクリティーク)	
10	量的研究方法・研究デザインとその特徴	高木廣文
11	実験・準実験的研究(Randomized Controlled Trialsなど) 非実験的研究(記述研究、遡及的/相関研究など)	
12	量的研究方法・調査用紙と調査技法 サンプリング・サンプルサイズ	
13	測定とデータ収集(信頼性と妥当性、測定用具、尺度)	高木廣文
14	量的研究方法・統計分析法	
15	記述統計、推測統計(パラメトリックな手法、ノンパラメトリックな手法) 多変量解析	

成績評価方法 : 出席状況 20%、レポート 50%、プレゼンテーション 30%を総合して評価する。

参 考 書 : 担当教員より事前、および随時に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 医療統計学	開講学年 : 1年次
英文名 : Biostatistics in Practice	開講学期 : 前期
担当教員 : 中山和弘 (科目責任者)	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 看護統計学、および医学統計学に関連する臨床研究の基礎理論を学び、実際の看護関連データの分析を行う。

授業の進め方 : 講義、演習、発表形式

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	統計学の役割	中山和弘
2		
3	データの種類と分布、データとデータの関連は基本的に3種類	中山和弘
4	量と量の関連 : 共分散、相関係数、決定係数、回帰係数の関係	中山和弘
5	量と質の関連 : 平均値の差の検定、検定とは何か	中山和弘
6	量と質の関連 : 分散分析と交互作用、統計は分散を説明する方法	中山和弘
7	質と質の関連 : 比率の差の検定 (χ^2 検定)	中山和弘
8	多変量解析入門	中山和弘
9		
10	重回帰分析	中山和弘
11		
12	因子分析と主成分分析	中山和弘
13		
14	構造方程式モデリング	中山和弘
15		

成績評価方法 : 授業出席、態度、及びレポートを総合的に判定する。

参 考 書 : 必要な場合、事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 保健医療システム論	開講学年 : 1年次
英文名 : Medical Health System Theory	開講学期 : 後期
担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)、柳澤裕之、浅沼一成、沢田貴志、 星 旦二	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授業概要: 授業概要: 保健医療にかかわる基本的な概念を歴史を踏まえて深く理解し、実践の場での課題への方略を探究する。

授業の進め方: 講義、プレゼンテーション、討議

授業計画: (1回は90分)

回	内容	担当者
1	日本の保健医療システムの現状と課題	櫻井尚子
2	保健医療計画と地域連携パス	柳澤裕之 浅沼一成
3	健康危機管理システムの現状と課題	
4	世界の保健医療の潮流	櫻井尚子
5	ヘルスプロモーション	
6	健康規程要因と社会格差	星 旦二
7		
8	ヘルスプロモーションの理念と看護実践	櫻井尚子
9		
10	健康教育とヘルスサービスの転換	櫻井尚子
11		
12	在日外国人の保健医療の現状と課題	沢田貴志
13		
14	地域の社会資源とソーシャルキャピタル	櫻井尚子
15		

成績評価方法: 出席状況 15%、プレゼンテーションを含む授業への参加状況 55%、レポート 30%を総合的に評価する。

参考書:

- 1) 国民衛生の動向 2011/2012・厚生指標. 厚生統計協会.
- 2) Richard Wilkinson and Michael Marmot. Social determinants of health. the solid facts. Second edition. WHO regional office for Europe.
高野健人 (監訳) 健康の社会的決定要因. WHO 健康都市研究協力センター. 2002年
*Web からダウンロードしてください。
その他は、必要時参考文献、資料を提示する。

受講上の注意: 主体的な参加を前提とする。その他は開講時に伝える。

科目名 : 看護理論特論	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Nursing Theory	開講学期 : 後期
担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)、筒井真優美	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授業概要 : 看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。卓越した高度看護実践の基盤となる看護に関する諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用を検討する。

授業の進め方 : 講義、文献講読、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護学の理論体系の発展過程・看護における理論開発の歴史と諸学問との関連 歴史的概観看護の専門性と看護理論	住吉蝶子
2	理論的思考の構成要素、看護学理論の分析方法 1. 概念分析の実際と概念開発	住吉蝶子
3	理論的思考の構成要素、看護学理論の分析方法 2. 理論分析の方法と適用、理論分析の実際	住吉蝶子
4	ナイチンゲールの看護における主要概念と理論分析	住吉蝶子
5	ヘンダーソン他の看護理論と概念の看護実践・研究・教育における重要性	住吉蝶子
6	科学史と科学の動向、看護学の発展と将来展望	住吉蝶子
7	人間関係の現象とケアリング、看護理論と存在論・方法論の調和について	
8	高度看護実践を支える看護の基盤となる概念	筒井真優美
9	看護論の実際への活用 (於：日本赤十字看護大学)	
10	様々な看護論 (人物像、理論の特徴と構造) (於：日本赤十字看護大学)	筒井真優美
11	様々な看護論 (ケアリングの概念を含む) (於：日本赤十字看護大学)	筒井真優美
12	看護学諸理論の構造と特徴	筒井真優美
13	高度看護実践に理論を適用することの意義と実際 高度看護実践の質を維持発展させるための理論構築 (於：日本赤十字看護大学)	
14	看護理論と専門看護実践への展開	筒井真優美
15	高度看護実践への理論活用の実際、利点と限界および留意点 (於：日本赤十字看護大学)	

成績評価方法 : 出席状況 20%、課題レポート 80%を総合して評価する。

参考書 : 筒井真優美編(2008). 看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用. 南江堂
その他、担当教員より随時に明示する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

筒井真優美 教授担当分については日本赤十字看護大学で実施する。

科目名 : 看護教育特論	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Nursing Education	開講学期 : 後期
担当教員 : 高島尚美 (科目責任者)、武村雪絵	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 看護ケアの質を高めるために高度看護実践者に必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境を整える等、看護の実践現場の質を高めるための継続教育に関するプログラム開発のための知見や方略を教授する。また、患者教育、看護学を生涯学習と捉えた看護師への教育支援についても教授する。

授業の進め方 : 看護専門職としてのキャリア開発を促進するための教育論や組織的取り組みについて、実証的なモデルやシミュレーション学習、プレゼンテーションを通じて、教育力を高める。特に、成人教育のための包括的プログラム検討や運営についても討議を行う。

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	看護職としての成長に影響する要素 個人の成長・学びとキャリアサイクルの課題	高島尚美
2	専門職業人としてのキャリア形成と開発モデル アンドラゴジー (成人教育) の目的と生涯学習	高島尚美
3	看護師への教育プログラム ・ 研究から導き出した理論の適用 ・ 教育計画に活かす学習理論	武村雪絵
4		
5	専門職業人のための包括的教育プログラムの現代的意義 ・ 新人ナースから中堅ナースまでの継続的教育プログラム ・ 教育計画とキャリア発達理論	武村雪絵
6		
7	継続的教育に対する看護管理者の役割と責務 ・ 継続教育計画と評価	武村雪絵
8		
9	専門看護師の活動と組織的取り組み 高度看護実践者のコンピテンシーと役割期待	高島尚美
10		
11	質の高いクリニカルラダープログラムの企画・作成① ・ 現在使用されているクリニカルラダーの特徴と課題分析 ・ 教育カリキュラム編成の実際	高島尚美
12		
13	質の高いクリニカルラダープログラムの企画・作成② ・ コンセプトを明確にして、グループでキャリア開発モデルを作成する	高島尚美
14		
15	プレゼンテーションとプログラム評価	高島尚美

成績評価方法 : 出席状況 30%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 30%を総合して評価する。

参 考 書 :

- ・エドガーH. シャイン著 二村敏子 三膳勝代 訳 「キャリア・ダイナミックス」2001年(第5刷)
- ・ライルM. スペンサー シグネM. スペンサー著 梅津祐良 他訳「コンピテンシー・マネジメントの展開」生産性出版 2009年(第5刷)
- ・マルカム・ノールズ著 堀 薫夫 三輪建二 監訳「成人教育の現代的実践」鳳書房 2002年
- ・G. トレス他 近藤潤子他訳 「看護教育カリキュラムーその作成過程ー」医学書院 1988年
その他、必要時参考文献・資料について紹介をする。

受講上の注意 : 履修前に履修方法、プログラム企画・プレゼンテーションについてオリエンテーションを行う。

科目名 : コンサルテーション論	開講学年 : 1 年次
英文名 : Consultation Theory	開講学期 : 後期
担当教員 : 川野雅資 (科目責任者)、高木明子、久山幸恵、柏木夕香	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 看護職を含むケア提供者に対して実践的な問題を解決するのを助けるためのコンサルテーションの理論・概念をカプランの原書を講読して理解し、組織や個人を対象にした効果的なコンサルテーション、コンサルタントとしての役割機能と評価について考察する。また、高度看護実践者、専門看護師としてのコンサルテーションの実際を理論に則って探究する。

1. コンサルテーションの基本概念
コンサルテーションとスーパービジョンとの相違
2. コンサルテーションのプロセス
3. コンサルタントの役割
4. コンサルテーションにおける対人関係
5. コンサルタントの限界

授業の進め方 : 講義、演習、討議、プレゼンテーション 授業は学生が主体的に担当して進める。

授 業 計 画 : (1 回は 90 分)

回	内 容	担当者
1	文献紹介、演習先の検討、コンサルテーションの基本概念	川野雅資
2	CNS におけるコンサルテーションの理論と実際	柏木夕香
3	コンサルテーションのプロセス	
4	コンサルテーションとスーパービジョンにおける結果の責任	
5	コンサルタントの役割、コンサルテーションにおける対人関係 ピア・レビュー、スーパービジョン	
6	カプランのメンタルヘルスコンサルテーションの 15 の特性について	川野雅資
7	カプランのコンサルテーションの 4 つのモデルについて コンサルテーションの契約、実施、評価のプロセスと記録用紙の作成	
8	コンサルテーションの実施、患者中心のコンサルテーションの実際	久山幸恵
9	コンサルティ中心の事例のコンサルテーションの実際 組織のコンサルテーションの実際、コンサルティ中心の組織のコンサルテーションの 実際、さまざまな看護専門分野におけるコンサルテーション、フォローアップ	
10	実施したコンサルテーションの発表・討議	川野雅資
11		
12	コンサルテーションの限界と状況に応じた高度看護実践者としての役割の発展	高木明子
13	CNS の役割の変換	
14	フィードバック、スーパーバイザーへの報告、看護管理者と CNS の関係 組織における CNS の実践活動、レポート提出	川野雅資
15		

成績評価方法 : クラスへの参加 30%、コンサルテーションの実施 20%、論文 50%を総合して評価する。

- 参 考 書 : 1) Gerald Caplan(1970):The Theory and Practice of Mental Health Consultation, Basic Books, INC, (入手困難なために教員が用意する)
- 2) Paytricia R. Underwood 著、勝原裕美子訳(1995):コンサルテーションの概要—コンサルタントの立場から、インターナショナルナーシングレビュー、18(5):4-12

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 遺伝学特論	開講学年 : 1年次
英文名 : Medical Genetics	開講学期 : 後期
担当教員 : 穴澤貞夫 (科目責任者)	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 遺伝に起因する疾患の中で、特に悪性腫瘍に焦点をあてて遺伝性疾患と遺伝問題を持つ人及び家族へのケアについて教授する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	遺伝のメカニズムと遺伝疾患	穴澤貞夫
2		
3		
4		
5	悪性腫瘍と遺伝	穴澤貞夫
6		
7	家族性大腸線維腫遺伝性非ポリポーシス大腸がん ・診断と治療 ・家族が抱える問題と支援 (医師の立場から)	穴澤貞夫
8		
9		
10	個人及び家族を単位とする遺伝問題のアセスメントプロセス	穴澤貞夫
11		
12		
13	遺伝的な問題をもつ対象への支援 (手段と資源)、看護師の役割	穴澤貞夫
14		
15		

成績評価方法 : 出席状況 50%、レポート 30%、プレゼンテーション 20%を総合して評価する。

参 考 書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 感染防御論	開講学年 : 1年次
英文名 : Infectious Diseases & Infection Control	開講学期 : 後期
担当教員 : 堀 誠治 (科目責任者)、清田 浩、高野八百子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授 業 概 要 : 本邦では、医療の進歩、高齢化などにより、病院内のみならず、老人保健施設、在宅での易感染性宿主が増加している。一方、耐性菌の増加、感染症のグローバル化に伴い、感染症に対する理解、その防止対策に関する知識と技能は、看護の上で必要かつ欠くことのできないものとなっている。ここでは、感染症・感染症治療並びに感染防御における最新の知識・技能を理解するとともに、看護現場における感染症治療・感染防御の問題点を抽出し、その解決法を探求する。

授業の進め方 : 講義、プレゼンテーション、ディスカッション

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	感染症総論—感染症の捉え方— 感染症の診断と診断法 (その落とし穴)	堀 誠治
2	生体防御機構と感染	清田 浩
3	感染症化学療法とその問題点—抗微生物薬の特徴と問題点、最新の話題—	堀 誠治
4	感染症化学療法その問題点—耐性菌対策と最新の抗微生物薬投与法—	堀 誠治
5	呼吸器感染症の特徴とその対策	堀 誠治
6	外科感染症の特徴とその対策	清田 浩
7	性感染症・尿路感染症の特徴とその対策	清田 浩
8	院内感染とその対策	堀 誠治
9	感染看護専門看護師の役割と活動	高野八百子
10	院内感染サーベランス	高野八百子
11		
12	易感染性患者のケア	高野八百子
13		
14		
15	プレゼンテーションとディスカッション, まとめ	堀 誠治

成績評価方法 : 出席状況 20%、レポート 30%、プレゼンテーション 50%を総合して評価する。

参 考 書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 看護歴史学	開講学年 : 2年次
英文名 : Nursing History	開講学期 : 前期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、小檜山ルイ	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授業概要 : 日本において近代的な看護教育が始まった経緯とその発展過程を、歴史的研究手法を用いて探究する。さらにジェンダーの視点から看護の発展過程を捉え、「歴史事実から学ぶ」意味を教授する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護歴史学研究の意義、日本における近代看護教育の創始	柿川房子
2	明治期の看護教育	柿川房子
3	大正期・昭和前期の看護教育	柿川房子
4		
5	大関和・保良せきの看護実践と著作・教育・啓蒙活動	柿川房子
6	戦時体制下における特殊な看護教育	柿川房子
7	GHQによる日本の看護政策立案過程	柿川房子
8	歴史研究の情報科学的アプローチ	柿川房子
9	アメリカにおける女性史と看護の発展過程	小檜山ルイ
10		
11	女性史研究における資料収集方法、女性史研究の方法	小檜山ルイ
12		
13	現代における看護教育の変遷と課題	柿川房子
14	看護歴史学研究の方法、歴史資料の収集と解釈	柿川房子
15		

成績評価方法 : 出席状況 20%、課題レポート 80%を総合して評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 国際医療論	開講学年 : 2年次
英文名 : International Health & Welfare	開講学期 : 前期
担当教員 : 川野雅資 (科目責任者)、徳永瑞子、沢田貴志	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

授業概要 : ①諸外国からの最新看護情報の移入と日本の看護への適用、②現地に赴く医療と看護支援・連携のあり方、③日本に居住する外国人の健康支援について概説し、グローバルな立場に立つ医療・看護のあり方を探究する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	医療・看護のグローバル化と看護師の役割	川野雅資
2	諸外国からの最新看護情報の移入 : 米国の看護を学ぶ ・医療連携の方法 ・チーム医療の専門家育成	川野雅資
3		
4		
5		
6	現地に赴く医療と看護支援・連携 ・派遣する国(日本)と派遣を受ける国 ・派遣する国間の連携	徳永瑞子
7		
8		
9	日本に居住する外国人の健康支援	沢田貴志
10		
11		
12		
13		
14		
15	グローバルな立場に立つ医療・看護のあり方と課題	川野雅資

成績評価方法 : 出席状況 20%、レポート 50%、プレゼンテーション 30%を総合して評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

專 門 科 目

科目名 : 急性・重症患者看護学特論 I (危機理論)	開講学年 : 1 年次
英文名 : Advanced Acute Nursing Care	開講学期 : 前期
担当教員 : 高島尚美 (科目責任者)、井上智子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分: 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業概要: 危機状況下における人間の反応を総合的に捉える科学的アプローチの基盤となる危機理論・ストレス・コーピング理論の原理や実践への応用について探求する。さらに、衝撃的な体験に対しての回復過程やそれを促す専門的援助方法の事例検討を通じて、健康危機状況における人間の内的世界や人間存在価値や意味についても認識を深める。

授業の進め方: 危機理論・ストレス・コーピング理論開発の源泉、看護実践への活用の可能性について事例を通して検討しながら、今後の研究課題について展望しながら解説・検討する。

授業計画: (1回は90分)

回	内容	担当者
1	急性期看護学概論	高島尚美
2	理論の実践への適用 概念モデル・看護理論・中範囲理論	高島尚美
3	患者の体験している世界に接近するための相互作用技術	高島尚美
4	患者の体験していることと意味の理解—問題提起と討論	高島尚美
5	高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ①危機理論の理論基盤、関連のある諸概念	井上智子
6	高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論 ②危機理論の種類や特徴	井上智子
7	高度ストレス状況にある患者ケアに活用できる理論の応用 ③理論の応用: 例: 手術等 侵襲的治療を受ける人の事例検討	高島尚美
8	高度ストレス状況下にある患者ケアに活用できる理論の応用 ④理論の応用: 例: 救命救急治療を必要としている人の事例検討	高島尚美
9	危機理論の比較検討	井上智子
10	ストレス・コーピング ①ストレスとコーピングの概念、理論の歴史的発展	井上智子
11	ストレス・コーピング ②ラザルスのストレスとコーピング理論 文献検討	井上智子
12	事例検討: 関心のある理論を選択して、理論基盤にある概念、特徴、健康危機状況下にある患者へ活用することの有用性について検討	高島尚美
13	事例検討: プレゼンテーション	高島尚美
14	事例検討: プレゼンテーション	高島尚美
15	事例検討: プレゼンテーション 学修のまとめ	高島尚美

成績評価方法: 出席状況 20%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 30%

参考書: ①Patricia G. Morton, Dorrie K. Fontaine 「CRITICAL CARE NURSING A Holistic Approach」
9th Edition, Lippincott Williams & Wilkins 2009
②リチャード・ラザルス著 本明寛監訳 「ストレスの心理学」実務教育出版 1991
③その他 必要な場合、担当教員より事前に指定・提示する。

受講上の注意: 関連文献の検索と活用および履修方法について、受講前にオリエンテーションを行う。

科目名 : 急性・重症患者看護学特論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Physical Assessment for Acute Patients	開講学期 : 前期
担当教員 : 芳賀佐和子 (科目責任者)、高島尚美、道又元裕、 奥野憲司	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業概要 :

クリティカルケア・集中治療を必要とする患者の生理学的変化、生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みを理解し、高度専門職としてのフィジカルアセスメントの技法を修得する。さらに、客観的に開発されている臨床判断のためのガイドラインも活用して臨床実践能力を高める。

授業の進め方 : 臨床判断能力を高めるために、具体的な観察技術、全身の見方、系統的フィジカルアセスメントの実際を、急性・重症患者の特徴を踏まえながら講義演習を通して修得できるように進める。シミュレーションモデルの活用、臨床の実践場面においてもアセスメントの体験ができるように計画する。

授業計画 : (1回は90分)

回数	内容	担当者
1	クリティカルケアにおける観察/フィジカルアセスメントの重要性と看護の特徴	芳賀佐和子
2	重症・集中治療を受ける患者の生活行動のアセスメント:アセスメントツールとは	高島尚美
3	重症・集中治療を必要とする患者の主要なフィジカルアセスメント ①生体侵襲とは	高島尚美 道又元裕
4	①生体侵襲とは	高島尚美 道又元裕
5	②循環・心機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント	高島尚美
6	③呼吸機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント	高島尚美
7	④脳・神経機能、機能維持・回復・悪化のアセスメント	奥野憲司
8	⑤栄養・代謝の維持・回復・悪化のアセスメント	高島尚美
9	技術/事例演習: フィジカルアセスメント技術を修得する。	芳賀佐和子
10	技術/事例演習: フィジカルアセスメント技術の修得	芳賀佐和子
11	フィジカルアセスメントのためのアセスメントツールの検討	高島尚美
12	技術/事例演習: ICUにおいて実際の事例のフィジカルアセスメントを実施する。 例: 心筋梗塞患者の事例演習 (ICU実習) 心機能評価を技術演習室や視聴覚教材、シミュレータモデルの活用、 集中治療室において 心胸郭比、心音、心拍出量モニター、血行モニタリング、血行動態パラメータの解釈 等	高島尚美
13	技術/事例演習: ICUにおいて実際の事例のフィジカルアセスメントを実施する。	高島尚美
14	技術/事例演習: ICUにおけるフィジカルアセスメントの実際の結果を検討する。	高島尚美
15	技術/事例演習: ICUにおけるフィジカルアセスメントの実際の結果を検討する。	高島尚美

成績評価方法: 技術演習の出席状況 50% 演習課題レポート 50%

参考書: Lynn S. Bickley, 福井次矢 井部俊子監訳 「ベイツ診察法」

メディカル・サイエンス・インターナショナル (9th Edition) 2009

その他、必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意: 事例演習・技術演習等の履修方法について、受講前にオリエンテーションを行う。

科目名 : 急性・重症患者看護学特論Ⅲ (代謝病態生理と治療管理)	開講学年 : 1年次
英文名 : Pathophysiology & Cure Management for Acute Patients	開講学期 : 前期
担当教員 : 高島尚美(科目責任者) 穴澤貞夫、谷口郁夫、瀧浪将典、 大谷 圭、大槻穰治、讚井将満、内野滋彦、近藤一郎、 鹿瀬陽一	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業概要 :

重症・集中治療が必要な患者には医学的介入が重要となる。患者・家族中心の治療が進められるように治療環境を総合的に管理するための知識を教授する。主な授業内容として、重症集中治療室における安全管理、ME機器に関する基本的な知識、治療に多職種が関与することに対する緊急対応システム、身体侵襲が伴う救命救急処置、呼吸・循環管理、鎮静鎮痛管理、代謝管理、創傷管理、等に関する高度実践に必要な知識や技術を教授する。

授業の進め方 : 重症・集中治療を受ける患者の病態生理学的変化に注目しながら、安全な治療管理について実践的な能力を修得するように、看護師、医師、臨床工学士の協働性と専門分野の独自性について検討しながら講義を進める。

授業計画 : (1回は90分)

回数	内容	担当者
1	重症・集中看護ケアの基盤となるEBN : 病態生理学を学ぶ重要性	高島尚美
2	生命危機に対する治療管理 ①急性腹症のみかた	大谷 圭
3	生命危機に対する治療管理 ②外傷・中毒	大槻穰治
4	生命危機に対する治療管理 ③心肺蘇生法のEBM	鹿瀬陽一
5	生命危機に関する治療管理 ④循環・心機能	谷口郁夫
6	生命危機に対する治療管理 ⑤呼吸管理	讚井将満
7	生命危機に対する治療管理 ⑥腎機能・水・電解質の管理	内野滋彦
8	生命危機に対する治療管理 ⑦鎮痛・鎮静	瀧浪将典
9	生命危機に対する治療管理 ⑧緊急検査と緊急手術のマネジメント	近藤一郎
10	創傷治療のメカニズム	穴澤貞夫
11	創傷のドレッシング	穴澤貞夫
12	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ①プレゼンテーション	高島尚美
13	急性・重症患者に特徴的な治療管理 ②プレゼンテーション	高島尚美
14	集中治療室で活用するME機器の管理 (ME機器の基礎 (その種類と動作原理、および管理方法の特徴))	高島尚美 CE (岩谷理恵子)
15	集中治療室で活用するME機器の管理 (ME機器の準備・使用中の管理、事故防止・使用後の管理/集中治療室・手術室で用いられる画像診断装置の基礎)	高島尚美 CE (岩谷理恵子)

成績評価方法 : 出席状況 50% プレゼンテーション 30% 課題レポート 20%

参 考 書 : ① Hildly M. Schell, Kathleen A. Puntillo 著 井上智子監訳 「Q&A で学ぶ重症患者ケア」
エルゼビアジャパン 2008

② 日本蘇生協議会 監修「AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン 2005」
日本語版 シナジー 2008 (第1版)

その他 必要な場合、担当教員より事前に指定・提示する。

受講上の注意 : 受講生は、医学的介入が必要な病態に対しての最新の診療指針や治療ガイドラインについて情報検索をしておくこと。

科目名 : 急性・重症患者看護学演習 I (看護援助論 I : 援助関係論、家族看護論を含む) 英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Acute Patients & Patient's Family I 担当教員 : 高島尚美(科目責任者)児玉久仁子、鈴木和子、荒井知子	開講学年 : 1 年次 開講学期 : 後期 単位数 : 2 単位 開講形態 : 演習
--	---

科目区分 : 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業概要 :

クリティカルケアを必要としている患者は、何らかの要因によって身体を構成する臓器や組織に障害をきたし、適切な医療や高度な看護実践が緊急に行なわれないと生命の危機・死に直結する。この科目では安全・安寧を保証する立場から高頻度に発生する身体機能の恒常性調節を維持するケア及び適切な臨床判断や実践を実現するためのチーム医療システムに関する最新の知見を探究する。さらに、言語的コミュニケーション不能な状態の個人とその家族の理解と関わりについても教授する。

授業の進め方 : クリティカルケアに活用されている看護介入の分類と理論的背景について解説し実際の臨床看護体験を関連付けながら検討・探求する。

授業計画 : (1 回は 90 分)

回数	内 容	担当者
1	クリティカルケア看護の構成要素と特徴	高島尚美
2	クリティカルケア看護に必要な看護実践能力 : 看護の卓越性とは	高島尚美
3	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用①	高島尚美
4	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用②	高島尚美
5	集中治療室における看護ケアに必要な理論と活用③	高島尚美
6	チーム医療による協働性と看護の独自性/自律 クリティカルケア看護師の臨床判断とは	荒井知子
7	クリティカルケア看護師の臨床判断を育成するための教育的関わり	荒井知子
8	クリティカルケア看護における家族看護 ①家族看護に関する理論と概要 ②家族に対する援助の実際	鈴木和子
9	クリティカルケア患者・家族に活用できる EBN に基づいた看護介入モデル	高島尚美
10	看護介入モデルの解説と演習 ①せん妄ケア	高島尚美
11	看護介入モデルの解説と演習 ②睡眠のケア	高島尚美
12	看護介入モデルの解説と演習 ②睡眠のケア	高島尚美
13	看護介入モデルの解説と演習 ③ポジショニング	高島尚美
14	看護介入モデルの解説と演習 ③ポジショニング	高島尚美
15	看護介入モデルの解説と演習 ④排泄管理	高島尚美
16	看護介入モデルの解説と演習 ④排泄管理	高島尚美
17	看護介入モデルの解説と演習 ⑤頭蓋内圧モニタリング	高島尚美
18	看護介入モデルの解説と演習 ⑤頭蓋内圧モニタリング	高島尚美

19	看護介入モデルの解説と演習 ⑥ショック管理	高島尚美
20	看護介入モデルの解説と演習 ⑥ショック管理	高島尚美
21	看護介入モデルの解説と演習 ⑦積極的傾聴	高島尚美
22	看護介入モデルの解説と演習 ⑦積極的傾聴	高島尚美
23	先端医療を受ける患者・家族の支援 ①脳死と臓器移植に関わる課題 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
24	先端医療を受ける患者・家族の支援 ②脳死と臓器移植に関わる課題 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
25	先端医療を受ける患者・家族の支援 ③救命と延命に関わる課題 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
26	先端医療を受ける患者・家族の支援 ④救命と延命に関わる課題 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
27	先端医療を受ける患者・家族の支援 ⑤家族機能の維持と促進 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
28	先端医療を受ける患者・家族の支援 ⑥家族機能の維持と促進 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
29	先端医療を受ける患者・家族の支援 ⑦家族コーピング促進等の介入モデル 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美
30	先端医療を受ける患者・家族の支援 ⑧家族コーピング促進等の介入モデル 等	鈴木和子 児玉久仁子 高島尚美

成績評価方法：出席状況 30% プレゼンテーション 20% 課題レポート 50%

参 考 書：鈴木和子、渡辺裕子著「家族看護学 理論と実践」第3版 日本看護協会出版会 2006
その他、必要な場合、担当教員より事前に指定する。演習課題のプレゼンテーションを自ら実施するために、基本的な資料を検索する

受講上の注意： 看護介入モデルを日常的な看護ケアの中で探求する姿勢を培うことを重視する。

科目名 : 急性・重症患者看護学演習Ⅱ (看護援助論Ⅱ:看護倫理を含む) 英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Acute Patients & Patient's Family Ⅱ 担当教員 : 高島尚美 (科目責任者)、藤野智子	開講学年 : 1年次 開講学期 : 後期 単位数 : 2単位 開講形態 : 演習
--	---

科目区分:成人看護学(急性・重症患者看護学)分野

授業概要:クリティカルケアが必要な状況にある患者・家族の意思決定・自律性に関わる命題について探求する。インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護(アドボカシー)、倫理的課題、コンサルテーションについて医療者の役割と責務の立場から、範例を通して探求する。特に、生命危機の状況における治療方針の意思決定プロセスに関与する看護の役割に関しても、新しい知見や認識を深める。

授業の進め方:クリティカルシンキングスキル、ロジカルシンキングスキルを修得するように課題を明確して授業を進める。特に、概念を明確にしながら歴史的・社会的変化の視座を重視しながら医療の本質的探究態度を自覚できるように進める。また、患者の人権擁護のためすんで発言し、最適医療の提供に向けて状況改善の努力をする姿勢を磨くことについて検討する。

授業計画:(1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護の倫理綱領に関する共通課題と倫理的意思決定を巡る課題 現代の先端医療と患者権利を巡る課題を討議 臓器移植	高島尚美
2	倫理の原則と看護実践上の課題 道徳的判断形成の基盤となる倫理原則	高島尚美
3	看護実践に必要な概念分析:概念分析方法	高島尚美
4	看護実践に必要な概念分析:概念分析方法	高島尚美
5	インフォームド・コンセントの本質と方法論 自律性の概念、言語的説明能力	高島尚美
6	倫理的意思決定に不可欠な構成要素 道徳的理論の立場 法的理論の立場	高島尚美
7	倫理的意思決定モデルを活用した事例検討 ①フライによる看護実践における倫理分析と意思決定モデル	高島尚美
8	倫理的意思決定モデルを活用した事例検討 ①フライによる看護実践における倫理分析と意思決定モデル	高島尚美
9	倫理的意思決定モデルを活用した事例検討 ②トンプソンの10ステップモデル	高島尚美
10	倫理的意思決定モデルを活用した事例検討 ②トンプソンの10ステップモデル	高島尚美
11	文献講読:自律性と裁量権	高島尚美
12	文献講読:自律性と裁量権	高島尚美

13	文献講読：自律性と裁量権	高島尚美
14	文献講読：自律性と裁量権	高島尚美
15	文献講読：倫理的意思決定プロセス	高島尚美
16	文献講読：倫理的意思決定プロセス	高島尚美
17	急性期の医療の場における倫理調整の実際	藤野智子
18	急性期の医療の場における倫理調整の実際	藤野智子
19	急性期におけるコンサルテーションに関する概念の理解	藤野智子
20	急性期におけるコンサルテーションに関する概念の理解	藤野智子
21	コンサルテーションの実際	藤野智子
22	コンサルテーションの実際	藤野智子
23	先端医療を受ける患者・家族ケア ①脳死と臓器移植に関わる課題 (事例検討を含む)	高島尚美
24	先端医療を受ける患者・家族ケア ②脳死と臓器移植に関わる課題 (事例検討を含む)	高島尚美
25	先端医療を受ける患者・家族ケア ③脳死と臓器移植に関わる課題 (事例検討を含む)	高島尚美
26	先端医療を受ける患者・家族ケア ③脳死と臓器移植に関わる課題 (事例検討を含む)	高島尚美
27	先端医療を受ける患者・家族ケア ①救命と延命に関わる課題、等 (事例検討を含む)	高島尚美
28	先端医療を受ける患者・家族ケア ②救命と延命に関わる課題、等 (事例検討を含む)	高島尚美
29	先端医療を受ける患者・家族ケア ③救命と延命に関わる課題、等 (事例検討を含む)	高島尚美
30	先端医療を受ける患者・家族ケア スピリチュアルケアの概念化	高島尚美

成績評価方法：出席状況50%、プレゼンテーション50%（配布資料準備）

参 考 書：サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン著 片田範子 山本あい子訳「看護実践の倫理」
看護協会出版会 2005
グラディスL. ハステッド, ジェームスH. ハステッド 著 藤村龍子 樽井正義監訳「臨床実践のための
看護倫理 倫理的意思決定へのアプローチ」医学書院 2009
その他、必要な場合、担当教員より事前に資料を指定・配布する。

受講上の注意：関連文献の検索と活用について、受講前にオリエンテーションを行う。

科目名 : 急性・重症患者看護学演習Ⅲ (安楽・緩和ケア援助論)	開講学年 : 2年次
英文名 : Seminar/Comfort Care For Acute Patients	開講学期 : 前期
担当教員 : 高島尚美 (科目責任者)、芳賀佐和子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 成人看護学 (急性・重症患者看護学) 分野

授業概要 : クリティカルケア状況にある患者は突然の発病や外傷、手術などによって高度な心身の苦痛を体験する。このような患者には生命の安全が優先されるが、同時に積極的な心身の苦痛緩和を図ることや身体機能を正常に維持することはきわめて重要である。この科目では、生命のみならず人格と生活能力を保護し、安全と安楽・緩和ケアを補償する看護介入について探求する。

授業の進め方 : 高度なストレス状況にある患者理解や苦痛緩和に活用できる理論や概念に基づいた看護介入について、緩和方法を検討する。さらに、演習を通じて、有用な介入モデルを探求する。臨床カンファレンスに出席し、クリティカルシンキングスキルを上達させる。

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	急性期・重症患者・家族の苦痛緩和に対する援助 患者・家族が体験する苦痛の特徴と背景	高島尚美
2	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ①身体的苦痛・コンフォートケア	高島尚美
3	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ②コミュニケーション障害	芳賀佐和子
4	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ②コミュニケーション障害	芳賀佐和子
5	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ③意思決定上の葛藤	高島尚美
6	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ③意思決定上の葛藤	高島尚美
7	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ④自己概念の障害ーボディイメージ混乱	高島尚美
8	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ④自己概念の障害ーボディイメージ混乱	高島尚美
9	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑤ファシリテーション	高島尚美
10	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑤ファシリテーション	高島尚美
11	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑥スピリチュアルケア	高島尚美
12	急性期・重症患者に対する援助 科学的根拠に基づいた緩和ケア方法 ⑥スピリチュアルケア	高島尚美
13	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	芳賀佐和子
14	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	芳賀佐和子
15	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	芳賀佐和子
16	家族を失うことへの不安・悲嘆・罪悪感の概念・緩和ケア方法	芳賀佐和子
17	クリティカル状況にある患者に対する最新の情報や看護の動向・研究の動向を探 索し、新しい知見を深める演習 ①ペインコントロール (鎮痛・鎮静) に対する手術患者のケア	高島尚美
18	クリティカル状況にある患者に対する最新の情報や看護の動向・研究の動向を探 索し、新しい知見を深める演習 ①ペインコントロール (鎮痛・鎮静) に対する手術患者のケア	高島尚美

19	事例検討 例：痛みのある患者のケア	高島尚美
20	事例検討 例：痛みのある患者のケア	高島尚美
21	クリティカル状況にある患者に対する最新の情報や看護の動向・研究の動向を探索し、新しい知見を深める演習 ②代替療法の活用とケア、例：治療的タッチング介入モデルの活用	芳賀佐和子
22	②代替療法の活用とケア、例：治療的タッチング介入モデルの活用	芳賀佐和子
23	事例検討 例：人工呼吸器装着患者のケア	高島尚美
24	事例検討 例：人工呼吸器装着患者のケア	高島尚美
25	事例検討 例：術後 せん妄患者の緩和ケア 治療環境の調整を含めたトータルケア	高島尚美
26	事例検討 例：術後 せん妄患者の緩和ケア 治療環境の調整を含めたトータルケア	高島尚美
27	事例検討 例：術後 せん妄患者の緩和ケア 治療環境の調整を含めたトータルケア	高島尚美
28	医療チームによる協働的活動：シミュレーション技術演習 看護の評価：チームカンファレンスの効果	高島尚美
29	医療チームによる協働的活動：シミュレーション技術演習 看護の評価：チームカンファレンスの効果	高島尚美
30	医療チームによる協働的活動：シミュレーション技術演習 看護の評価：チームカンファレンスの効果	高島尚美

成績評価方法：出席状況 30%、プレゼンテーション 50%、レポート 20%

参 考 書：Gkoria M. Bulechek, Joanne C, McCloskey 著 早川和生監訳「看護介入 NIC から精選した 43 の看護介入」医学書院 2004
John R. Cutcliffe High P. McKenna 著 山田智恵里監訳「看護の重要コンセプト 20」エルゼビア・ジャパン 2008
その他、必要な場合、担当教員から事前に指定する。

受講上の注意：関連文献の検索と活用について、受講前にオリエンテーションを行う。

科目名：急性・重症患者看護学実習	開講学年：2年
英文名：Advanced Practicum of Critical Care Nursing	開講学期：前期・後期
担当教員：高島尚美（科目責任者）、藤野智子、荒井知子、佐藤憲明	単位数：6単位
	開講形態：実習

科目区分：成人看護学（急性・重症患者看護学）分野

実習概要：周手術期やクリティカルケア状況にある患者・家族に卓越した専門的な看護援助を提供し、看護ケアの評価ができるようになるために必要な論理的・実践的思考と専門的な看護技術／看護介入について探究する。また、看護チームの中で、問題解決のためにリーダーシップがとれるよう調整能力、教育・相談能力を主体的に修得する。さらに、患者・家族の体験している意思決定上の葛藤、倫理的課題に対するコンサルテーション能力を高め、重症・集中治療を必要としている患者・家族ケアに求められている卓越性や専門性について考察を深める。

実習1

実習目標

[実践]

- 1) 健康状態が急激に変化する患者ケアについての適切な臨床判断の実際について、体験を通してコンピテンシーを高めることができる。
- 2) 患者理解やケアに関連した理論や介入モデルを活用して、実際の看護ケアの質を高めることができる。
- 3) 患者の苦痛をより効果的に緩和する援助方法について、創造的な看護の実際を取り入れることができる。
- 4) 日々の実習体験を評価し、専門能力を高めるための自らの課題について、看護チームカンファレンスにおいて課題提起し、解決の方策を見いだすことができる。
- 5) 急性・重症患者看護（家族ケアを含む）に求められる卓越性や専門性・倫理的課題について実習体験を通じて考察を深めることができる。

[倫理]

- 1) 患者の人権やプライバシーに関わる倫理的課題を見極め、倫理的葛藤が生じている場面を意図的に取り上げ、その調整・援助方法を考えることができる。

[研究]

- 1) 実習体験をケースレポートとしてまとめ、急性・重症患者看護における研究課題を明確にすることができる。
- 2) 実際の看護介入を行なう前に、科学的根拠に基づいた先行研究からその適用性について検討できる。

実習場所 東京慈恵会医科大学附属病院、日本医科大学病院

実習計画

実習週	実習内容	実習場所
1週目～2週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。また、倫理的課題を見極め、その調整方法を考える。 ※上記目標の [実践] [倫理] の部分	東京慈恵会医科大学附属病院 日本医科大学病院
3週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践及び研究活動（課題の明確化）を行う。 ※上記目標の [実践] [研究] の部分	東京慈恵会医科大学附属病院 日本医科大学病院

実習2

実習目標

[実践]

- 1) 健康状態が急激に変化する患者ケアについての適切な臨床判断の実際について、体験を通してコンピテンシーを高めることができる。
- 2) 患者理解やケアに関連した理論や介入モデルを活用して実際の看護ケアの質を高めることができる。
- 3) 患者の苦痛をより効果的に緩和する援助方法について創造的な看護の実際を取り入れることができる。

[教育]

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者としての教育的機能をはたすために、看護チームメンバーに対し、受け持った患者の看護実践モデルを提示することができる。

[相談]

- 1) 看護チームメンバーからの看護実践の教育・相談を受けることができる。
- 2) 日々の実習体験を評価し、専門能力を高めるための自らの課題について看護チームカンファレンスにおいて問題提起し、解決の方策を見いだすことができる。さらに相談内容に適切なコンサルテーション技法を用いることができる。

[調整]

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者として、受け持ち患者のケアを円滑に行うために、医師、薬剤師、看護チームメンバーなどの保健医療に携わる人々の間の調整を行うことができる。

[倫理]

- 1) 急性・重症者看護の卓越した実践者として、患者の人権やプライバシーに関わる倫理的課題を見極め、適切に対応できたかも含めて看護評価を行なうことができる。

[研究]

- 1) 急性・重症患者看護（家族ケアを含む）に求められる卓越性や専門性・倫理的課題について実習体験を通じて考察を深めることができる。
- 2) 実習体験をケースレポートとしてまとめ、急性・重症患者看護（家族ケアを含む）における今後の研究課題について明確にすることができる。先行研究の文献を検索し、比較検討することができる。

実習場所：聖マリアンナ医科大学病院、日本医科大学病院、杏林大学医学部付属病院

実習計画

実習週	実習内容	実習場所
1週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。 また、専門看護師としての役割を修得する。 ※上記目標の [実践] [教育] [相談] の部分	聖マリアンナ医科大学病院 日本医科大学病院 杏林大学医学部付属病院
2週目前半	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。 また、専門看護師としての役割を修得する。 ※上記目標の [実践] [教育] [相談] [調整] の部分	聖マリアンナ医科大学病院 日本医科大学病院 杏林大学医学部付属病院
2週目後半	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。さらに、倫理的な問題・葛藤について調整する方法を探求する。 ※上記目標の [実践] [教育] [相談] [倫理] の部分	聖マリアンナ医科大学病院 日本医科大学病院 杏林大学医学部付属病院
3週目	急性・重症患者看護の卓越した看護実践を行う。さらに、実践の場における研究活動（レポート作成）を行う。 ※上記目標の [実践] [研究] の部分	聖マリアンナ医科大学病院 日本医科大学病院 杏林大学医学部付属病院

実習場所との連携

- 1) 実習の依頼に関しては、実習機関所属長と本大学院で取り決めを行う。
- 2) 実習の詳細について専門看護師、調整担当者等に説明して了解を得る。
- 3) 大学院生は事前に実習計画書を提示し、病棟師長をはじめ、スタッフにも実習の目的などについて、十分理解が得られるように働きかける。

評価

専門看護師とともに必要な調整を行い、評価する。実習態度、参加状況、提出レポートを総合して評価する。

指導の役割

(高島尚美教授)

急性・重症患者看護学実習の全過程の実習計画、実践、評価の責任者である。大学院生の実習目的・目標の設定、実習方法の助言を行い、実習場・施設の責任者との日程交渉、事例検討会の企画、評価・フィードバック等を行う。

(藤野智子・荒井知子・佐藤憲明非常勤講師)

実習中の大学院生への相談・助言を行う。受け持ち患者・家族への同意及び承諾を得る。急性・重症患者看護専門看護師の役割活動範囲・責務に関する指導、事例検討会への出席、適切な評価・フィードバックを行う。

(実習指導者)

急性・重症患者看護の卓越した実践能力を備えている看護師（師長等）が実習指導者として、実習中の大学院生への相談・助言を行う。

科目名 : がん看護学特論 I (がん看護理論)	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Cancer Nursing	開講学期 : 前期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、藤野彰子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : 高度実践指導者として、専門的ながん看護を行っていくうえで基盤となる概念、主要理論（ストレス・危機・喪失・悲嘆・適応・セルフケア・コーピング・自己概念等）について探究する。

授業の進め方 : 講義、セミナー

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	がん看護の基本概念	柿川房子
2	緩和ケアの基本概念	柿川房子
3	がん看護・緩和ケアの歴史的背景と近年の動向	柿川房子
4	がん看護・緩和ケアの社会的背景と近年の動向 (理論、倫理、実践、研究、教育)	柿川房子
5	がん看護・緩和ケアにおける倫理的課題	柿川房子
6	がん看護に必要な理論 : 危機・喪失・悲嘆	柿川房子
7	がん看護に必要な理論 : ストレスコーピング・自己概念	柿川房子
8	がん看護に必要な理論 : 適応理論・セルフケア理論等	柿川房子
9	がん患者及び苦痛を体験している人々と家族を全人的に理解するための概念と理論の探求 : 傾聴・共感	柿川房子
10	がん患者及び苦痛を体験している人々と家族を全人的に理解するための概念と理論の探求 : カウンセリング	柿川房子
11	がん看護・緩和ケアに関連するパラダイム、主要理論と概念の実践活用について	柿川房子
12	がんサバイバーと家族理解の基本概念と理論	藤野彰子
13	がんサバイバーと家族のためのセルフヘルプ理論	藤野彰子
14	がんとともに生きる人々、苦痛を体験している人々の発達段階及び家族のライフスタイルの理解と適応 (概念と理論の探求)	藤野彰子
15	がん発生と生存に関する文化、社会学的理論の考察	藤野彰子

成績評価方法 : 出席状況、グループ討議への参加度、レポートを総合して評価する。

参考書 : 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

受講上の注意 : 主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名 : がん看護学特論Ⅱ (がん看護に関する病態生理と診断・治療)	開講学年 : 1年次
英文名 : Pathophysiology & Cure Management for Cancer Patients	開講学期 : 前期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、穴澤貞夫、相羽恵介、内田 賢 兼平千裕、和田高士、安達 勇	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : がん看護、特に緩和ケアにおいて、最新の知見を踏まえてその専門技術を実践していくために、予防、診断、患者の病態生理、最新の治療 (手術療法・リハビリテーション・化学療法・幹細胞移植・放射線療法・代替療法・相補療法・薬物療法)、終末期の過程における知識を深め、全人的緩和ケアに関する基本概念と理論を探究する。授業のはじめに、看護と病態生理、診断治療の知識を統合するための導入学習を行う。

授業の進め方 : 講義、セミナー

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	がん医療最新の動向と看護に関する概念	柿川房子
2	精神腫瘍学の概念と看護	柿川房子
3	がんの病態と腫瘍学の概念 ・悪性腫瘍学の基礎 ・腫瘍の発生 ・がん細胞と正常細胞	穴澤貞夫
4	遺伝からみたがんのタイプ、遺伝子治療の概念・手術総論・手術の効果と評価	穴澤貞夫
5	がん手術後のリハビリテーション ・手術と高障害 ・障害克服への道	穴澤貞夫
6	がんの病理診断と化学療法及び有害事象と看護	相羽恵介
7	がんの化学療法・幹細胞移植と臨床薬理	相羽恵介
8	固形がんの化学療法と臨床薬理、乳がんにおける最新治療の動向	内田 賢
9	がんの病因と疫学、リスクファクターの基本概念、最新の動向	内田 賢
10	最新の放射線診断と治療における概観	兼平千裕
11	発がんから早期発見、再発、転移、に至る病期における放射線療法と看護	兼平千裕
12	がんの病理診断と緩和ケア・代替療法・相補療法に関する概念と理論	和田高士
13	がんの予防、検診、疫学、QOLとサバイバーシップに関する概念と理論	和田高士
14	緩和ケアにおける病態とQOLに関する概念と理論	安達 勇
15	がんの病期とQOLとサバイバーシップに関する緩和ケアの概念と理論	安達 勇

成績評価方法 : 出席状況、レポート、プレゼンテーションを総合して評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名 : がん看護学特論Ⅲ (がん看護援助論 [理論編]) 英文名 : Nursing Intervention for Cancer Patients & Patient's Family 担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、藤野彰子、久山幸恵	開講学年 : 1年次 開講学期 : 前期 単位数 : 2単位 開講形態 : 講義
--	---

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : がんの予防、病名、診断治療に伴う予後告知・治療の選択、意思決定および症状マネジメントにおける高度実践指導者としてのアセスメント、援助技術に必要な援助論について探究する。さらに看護援助技術を展開する上での、医療提供システム内を調整する能力について探究する。

授業の進め方 : 講義、セミナー

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	がん看護・緩和ケア援助における実践概念と理論の探究	柿川房子
2	実践モデルにおける危機介入のアセスメントとその援助技術の理論と分析	柿川房子
3	症状のアセスメント及びマネジメントの理論とその実践分析	柿川房子
4	患者・家族の自己認識とコーピング、適応のアセスメントと援助技術の理論とその実践分析	柿川房子
5	がんの予防、病名、診断治療に伴う支援技術の理論基盤とその実践分析	柿川房子
6	予後告知・治療選択に伴う意思決定とその支援技術と倫理的分析	柿川房子
7	医療提供システム内の調整と協働についての理論的背景と展開	久山幸恵
8	ケアチームに必要なコンサルタントと実践的援助の理論的分析	久山幸恵
9	がん患者と家族の理解のためのアセスメントおよび援助論とその実践分析	藤野彰子
10	がん看護の専門的役割の理論的背景と実践モデルの開発	藤野彰子
11	がん看護の専門的役割展開と援助論	藤野彰子
12	がんおよびがん治療によってもたらされる有害事象と援助技術	柿川房子
13	がん看護モデルの分析とその評価	
14	がん看護分野における研究法とクリティーク	藤野彰子
15	がん看護に関する援助技術の課題と展望	

成績評価方法 : 出席状況、グループ討議への参加度、レポートを総合して評価する。

参考書 : 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

受講上の注意 : 主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名 : がん看護学演習 I (がん看護援助論 [実践編])	開講学年 : 1年次
英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Cancer Patients & Patient's Family	開講学期 : 後期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、藤野彰子、落合和徳、細矢美紀	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : 予防、診断、病名・予後告知、治療選択、治療、諸症状についてのアセスメント、援助技術を修得する。
援助者としてがん患者の人権を擁護するために倫理的判断のアセスメント等、実践的な課題をもって高度実践者の視点で看護モデルを分析・探究する。

授業の進め方 : セミナー、臨地での実践学習

授業計画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	予防、診断、治療選択、治療過程における患者・家族のアセスメントと援助技術についての文献、実践モデルの検証および分析検討を行う。	柿川房子
2		
3	再発期、終末期における患者・家族のアセスメントと援助技術についての文献、ならびに臨地での実践モデルの検証および分析検討を行う。	柿川房子
4		
5	がんによる苦痛をもって生活している患者及び家族の倫理的アセスメントと援助技術についての文献、実践モデルの検証と、分析検討、看護モデルを構築する。	柿川房子
6		
7	がん患者の人権を擁護する援助者としての倫理的アセスメントについて、実践的な課題をもって分析、評価の上で看護モデルを構築する。	柿川房子
8		
9	治療過程における身体的苦痛のアセスメントと援助技術を分析検討し、看護モデルを構築する。	柿川房子
10		
11	再発期、終末期における身体的苦痛の身体的アセスメントと援助技術を分析検討し、看護モデルを構築する。	柿川房子
12		
13	治療過程における精神的、社会的、霊的苦痛に対するアセスメントと援助技術について、女性性器がんの予防治療サバイバーシップの動向。	落合和徳
14		
15	終末期における生活の質とその意義を尊重するケアのアセスメント、援助技術の検討し、看護モデルを再構築する。	藤野彰子
16		
17	がんを体験している人々の効果的な援助を行うために、機能障害へのリハビリテーション技術について検討する。	藤野彰子
18		
19	がんを体験している人々と家族の効果的な援助を行うために、生活行動支援のあり方を検討する。	藤野彰子
20		

21	がんを体験している人々と家族のQOL・意思決定の尊重とアセスメント、援助技術について検討する。	藤野彰子
22		
23	がん患者の家族に対する援助のあり方について実践モデルを用いて検討する。	藤野彰子
24		
25	がん患者の家族を援助するためのチームケア（医師、看護師、薬剤師、MSW等）について、実践モデルを用いて検討する。	柿川房子
26		
27	がんを体験している人々と家族への援助展開のために、在宅、地域との連携について実践モデルを用いて検討する。	細矢美紀
28		
29	がん予防、診断、治療選択、治療過程さらに在宅における療養に関する援助のあり方を検討する。	柿川房子
30		

成績評価方法：出席状況、セミナー及び臨地学習への参加度、レポートを総合して評価する。

参考書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

受講上の注意：主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名 : がん看護学演習Ⅱ (緩和ケアⅠ)	開講学年 : 1年次
英文名 : Seminar/Palliative Care for Cancer Patients I	開講学期 : 後期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、藤野彰子、内山眞幸、細田志衣	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦悩を緩和するための(緩和ケア)概念と理論および、がんの治療過程における身体的、精神的、社会的そして霊的な背景を理解し、論理的なアセスメントと効果的な援助方法を実践的に検討、展開する能力を養う。
医療・看護職者に対する緩和ケアの教育・相談活動を探究する。

授業の進め方 : セミナー、臨地での実践学習

回	内 容	担当者
1	がんと共に生活する人々、家族の苦悩の理解と、安楽な日常のためのアセスメント、援助技術について実践モデルの検証、分析検討と看護モデルを構築する。	柿川房子
2		
3	緩和ケアの専門的かつ、卓越した実践、教育・相談活動について実践モデルを検証、分析、検討し新しい看護モデルを構築する。	柿川房子
4		
5	緩和ケアにおける意思決定のアセスメント、援助について、医療提供システム内の連絡調整について実践モデルを検証、分析検討し看護モデルを構築する。	柿川房子
6		
7	がん予防、診断、治療のもたらす精神的、社会的苦痛の緩和について実践モデルを通して検証、分析検討する。	藤野彰子
8		
9	がん予防、診断、治療のもたらす生活障害と生存の意味、および霊的な苦痛の緩和について実践モデルを通して検証、分析検討する。	藤野彰子
10		
11	がん治療過程に伴う複雑で困難な身体の器質的・機能的苦痛の実際について事例を通して検討する。	柿川房子
12		
13	がんがもたらす身体の器質的・機能的苦痛のフィジカルアセスメントと生活障害に対する緩和ケアとQOLを高める実践モデルを分析・検討する。	細田志衣
14		
15	がんがもたらす身体の器質的機能的苦痛に対する緩和ケアとQOLを高める専門性の高い看護モデルを構築する。	柿川房子 (角田真由美)
16		
17	緩和ケアにおけるサバイバーシップとリハビリテーションの意義について実践モデルの分析検討と看護モデルを構築する。	柿川房子 藤野彰子
18		
19	化学療法における苦痛緩和のアセスメントと援助技術に関する文献検討と実践モデルを検討する。	柿川房子
20		
21	化学療法・幹細胞移植に伴う生活障害とQOLを高めるための実践的な看護モデルを分析検討する。	柿川房子
22		

23	放射線治療に伴う生活障害に対処する看護援助と展望について検討する。	内山眞幸
24		
25	緩和ケアとしての放射線治療の役割と患者・家族のQOLを高めるための実践モデルのケアの検討と評価をする。	内山眞幸
26		
27	再発の予防と早期発見及び緩和ケアにおける生活調整における実践モデルを分析評価する。	柿川房子
28		
29	がん患者・家族の自己認知とセルフケアのための指導・教育、及び社会に対する啓発について代替療法を含めて検討する。	柿川房子
30		

成績評価方法：出席状況、セミナー及び臨地学習への参加度、レポートを総合して評価する。

参 考 書：参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

受講上の注意：主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名 : がん看護学演習Ⅲ (緩和ケアⅡ)	開講学年 : 2年次
英文名 : Seminar/Palliative Care for Cancer Patients Ⅱ	開講学期 : 前期
担当教員 : 柿川房子 (科目責任者)、藤野彰子、桑野和善、井上大輔 秋山正子、服部絵美、渡邊知映	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : がん看護学分野

授業概要 : がんと共に生活する人々、家族の特性を理解し、薬物療法や代替・相補療法など創意工夫して、より安楽な日常のためのアセスメント援助技術を強化する。特に終末期緩和ケアにおける身体、心理、社会、霊的ケアについて援助モデルの構築と、専門看護師の役割 (教育、啓発、相談、連絡調整、研究) と地域連携の論理的な根拠を強化する。

授業の進め方 : セミナー、臨地での実践学習

授業計画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	がんによるあらゆる苦痛の緩和に対処する専門的な実践、教育、相談活動、医療提供システム内の連絡調整、倫理的判断、援助について臨地での実践モデルを検証し、検討する。	柿川房子
2		
3	終末期における苦痛緩和に対処する専門的な実践、教育、相談活動、医療提供システム内の連絡調整、倫理的判断、援助について臨地での看護モデルを構築する。	柿川房子
4		
5	緩和ケアにおけるコミュニケーションスキル、カウンセリングスキルを理解し、臨地における専門的な実践能力を養う。	柿川房子
6		
7	終末期ケアにおける疼痛・症状緩和について臨地での実践モデルの検証と新しい高度なケアのあり方を検討する。	秋山正子 服部絵美
8		
9	終末期ケアにおける在宅・地域ケアとの連携、相談について実践モデルの検証と新しい高度なケアのあり方を検討する。	
10		
11	終末期における身体的、精神的、社会的、霊的なケアにおけるアセスメント、援助技術、専門性を深める看護モデルについて複雑で困難な事例を通して検討する。	藤野彰子
12		
13	終末期における社会資源の活用について理解し、個人に適應する有効なサポートシステムを検討し、開発する。	藤野彰子
14		
15	緩和ケアチームにおける、専門看護師の機能と役割について検討し、将来的課題と協働について探求する。	柿川房子
16		
17	家族ケアにおける臨地での対象喪失、悲嘆、死別後のケアについて専門的な介入方法を個別的に検討し、評価する。	藤野彰子
18		
19	家族ケアにおける対象喪失、悲嘆、死別後のケアにおける専門看護師の機能と役割について実践モデルを検証し、新たな役割を探求する。	柿川房子
20		
21	緩和ケアにおける薬物療法、代替療法、相補療法の実践モデルの分析と評価及び倫理的課題を検討する。	井上大輔
22		
23	がんによる全人的苦痛とその緩和のための高度の先進的援助技術について実践事例を用いて検討する。	井上大輔
24		

25	肺がん患者の最新の治療と呼吸障害の援助技術について	桑野和善
26		
27	緩和ケアにおける現在の社会状況を反映した倫理的課題と援助技術及びがん看護に求められる専門的な質の向上について検討する。	渡邊知映
28		
29	終末期における看護援助についてチームケアの中での連携、コンサルタント、マネジメント等、専門看護師を取り巻く医療状況の変化と機能及び役割強化、拡大、並びに諸外国の実践状況の課題と動向について検討する。	渡邊知映
30		

成績評価方法 : 出席状況、セミナー及び臨地学習への参加度、レポートを総合して評価する。

参 考 書 : 参考文献及び資料は、随時提示または配布する。

受講上の注意 : 主体的な学習態度が前提になる。その他開講時に伝える。

科目名：がん看護学実習	開講学年：1・2年
英文名：Advanced Practicum of Cancer Nursing	開講学期：前期・後期
担当教員：柿川房子（科目責任者）、藤野彰子	単位数：6単位
	開講形態：実習

科目区分：がん看護学分野

実習概要：がん患者・家族のQOLの向上に寄与するために、特論と演習での学習を基盤にして、がん看護・緩和ケアを中心に、高度看護実践指導者（専門看護師）として必要な高度な実践能力を養う。同時に専門看護師の6つの役割（卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的問題の調整）を修得する。

1. 実習目標

[がん看護・緩和ケア]

がんおよびがん治療がもたらすあらゆる有害事象、苦痛症状、及び苦悩を緩和するために、薬物療法や代替・相補療法等を用いて創意工夫し、心理的、社会的、霊的に、科学的なアセスメントのもとに専門看護師のスーパービジョンを受けて以下の援助ができる。緩和ケアを焦点にするが、化学療法、放射線療法、手術療法および相補・代替療法等のがん治療に伴う、看護実践能力と倫理観、看護観をも発展させることができる。

1) 身体的苦痛

①がん性疼痛、②全身倦怠感、③がん性悪液質症候群、④消化器症状（嘔気・嘔吐、腸閉塞、便秘、下痢、腹水、嚥下困難）、⑤呼吸症状（呼吸困難、咳、胸水、喘鳴）、⑥泌尿器症状（排尿困難・尿閉、失禁、血尿）、⑦神経症状、⑧内分泌異常（高カルシウム血症）

2) 精神的苦痛の緩和

①精神症状と援助（サイコオンコロジー、危機介入、コーピング）、②不安（ストレスと不安）、③抑うつ・死の願望・自殺・危険因子、④せん妄

3) 社会的苦痛の緩和

①家族のケア・家族の発達段階とダイナミックス、②がんサバイバーシップ、③経済的問題、④療養上の心理社会的問題の調整、⑤家族の予期悲嘆・死の受容・臨終時の家族のケア

4) 霊的苦痛の緩和・ライフレビュー・生きる意味

[役割実習]

以下のがん専門看護師が実践する個人・家族または集団に対して卓越した看護の役割について説明することができる。

- 1) 専門看護師としてのアセスメント、計画、援助技術の卓越した実践、評価と課題探求能力を発揮し、説明できる。
- 2) 病棟や院内におけるカンファレンスや研修会等の企画や実践を参加観察して、ケアを向上させるための教育的機能の実践的展開について説明することができる。
- 3) 患者および看護職者を含むケア提供者、組織間のコンサルテーションについて、説明することができる。
- 4) チームケアにおける、家族やスタッフ、保健医療福祉に携わる人々との連携、協働、調整について、効果的なケアのあり方を説明することができる。
- 5) 病棟や院内で行われている看護研究について理解を深め、専門看護師の看護研究活動について説明することができる。
- 6) がん患者や家族の権利や意思を尊重し、ケアチームで話し合い、倫理原則を基本とした対処法を検討し、説明することができる。

2. 実習内容

1) 実習方法

(1) がん看護・緩和ケアに関する実習

がん専門看護師のスーパービジョンのもとに4単位4週間以上のがん看護・緩和ケアの実践実習を行う。

具体的には第1週目の2日間は①実習施設・病棟のオリエンテーションおよび病棟看護師に同行して、ケアを見学・実施を行う。第1週目3日目に②担当患者の決定と同意の取得を行う。以降は③CNSのスーパーバイズのもとに看護実践を行う。④週1回はCNS、教員、病棟担当看護師を交えてカンファレンスを行う。⑤原則として1単位45時間とするが、実習効果及び学習到達度により、期間を分割、あるいは延長して実習をすることもある。

(2) がんCNS役割に関する実習

がん専門看護師のスーパービジョンのもとに2単位2週間以上のがん専門看護師の役割実習を行う。具体的にはがん専門看護師の活動に同行し、がん専門看護師の実践モデルについて展開し、分析する。原則として1単位45時間とするが、実習効果及び学習到達度により、期間を分割、あるいは延長して実習をすることもある。

2) 実習場所

- 国立がん研究センター中央病院
- 国立がん研究センター東病院
- 静岡県立静岡がんセンター
- 東京慈恵会医科大学附属病院

3) 実習指導者

- 実習指導者：がん専門看護師
- 実習調整者：看護部長、副看護部長
- 実習担当教員：大学院がん看護学担当教員

*実習指導者と大学院教育担当者は、実習期間中、毎週1回のカンファレンスで事例検討、進捗状況の確認・連携と調整を行う。

実習	実習内容	実習場所
実習Ⅰ(がん看護実践実習)	がん看護の高度な看護実践を修得する。 ※上記目標の「がん看護」の部分	国立がん研究センター中央病院 国立がん研究センター東病院 静岡県立静岡がんセンター 東京慈恵会医科大学附属病院
実習Ⅱ(がんCNS役割実習)	がん専門看護師の役割を修得する。 ※上記目標の「役割実習」の部分	
実習Ⅲ(緩和ケア実践実習)	緩和ケアの高度な看護実践を修得する。 ※上記目標の「緩和ケア」の部分	

4) カンファレンス

(1) 個別カンファレンス

毎週1回がん看護学担当教員による実習施設へのラウンド時に実施する。

(2) 集合カンファレンス

実習の総合評価とまとめのために、大学院内で実施する。

5) 実習レポート

(1) がん看護・緩和ケアに関する実習においては、アセスメント(フィジカルアセスメントも含めて)対処計画・実践・評価のプロセスを明確にして看護モデルを構築して、記載する。①身体的苦痛緩和 ②精神的苦痛緩和 ③社会的苦痛緩和 ④霊的苦痛緩和について踏まえたレポートを提出する。

(2) がんCNS役割実習においては、6つの役割(卓越した実践、教育、相談、連絡調整、研究、倫理的調整)すべてにおいてレポートを提出する。レポートの形式は認定申請様式を参考にし、①複雑で対処困難な課題・アセスメント ②対処計画・実践・評価のプロセスを記載する。

3. 実習場所との連携

- 1) 実習の依頼に関しては、実習機関所属長と本大学院が取り決めを行う。
- 2) 実習の詳細について専門看護師、調整担当者等に説明して了解を得る。
- 3) 大学院生は事前に実習計画書を提示し、病棟師長をはじめ、スタッフにも実習の目的などについて、十分理解が得られるように働きかける。

4. 評価

専門看護師とともに必要な調整を行い、評価する。実習態度、参加状況、提出レポートを総合して評価する。

指導の役割

(柿川房子教授)

がん看護学実習の全過程の実習計画・実践・評価の責任者である。実習目的・目標の設定、実習方法の指導助言を行い、実習場・施設となる責任者との日程交渉、事例検討会の企画、評価・フィードバック等を行う。

(藤野彰子教授)

実習中の大学院生への相談・助言を行う。事例検討会への出席、実習記録の指導・助言を行う。評価・フィードバックを行う。

(実習指導者)

がん看護の専門看護師が担当する。他に、卓越した実践能力を備えている看護師（師長等）が実習指導者及び補助者として、実習中の大学院生への相談、実際の指導、助言、事例検討会への出席、評価・フィードバック等を行う。同時に、実習中に受け持つ患者・家族への説明、同意・承諾を得る。

科目名 : 看護管理学特論 I (看護管理学概論)	開講学年 : 1 年次
英文名 : Advanced Nursing Administration	開講学期 : 前期
担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)、草刈淳子	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 高度な実践を担う専門職に必要な看護管理の概念や理論及びその適用の実際を探究する。また、日本及び米国の看護管理の発展過程と看護サービス管理の変遷を通して、看護サービス提供システムを改善し変革するための組織的方略を探究する。さらに高度な専門職である専門看護師と看護管理者がそれぞれの役割を発揮すると共に協働して、保健医療福祉に携わる人々の間の連携・調整を効果的・発展的に遂行するための方策を探究する。
授業方法は、社会人大学院生個々の経験の実績が有効に機能するように、特にプレゼンテーションやグループ討議を活用する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護管理学の概念・理論枠組み ①看護管理学をとりまく学問分野・関連領域 ②システムアプローチによる看護管理過程 : 特徴、機能、歴史的背景、意義	草刈淳子
2	③組織行動 : システムとしての組織、個人・集団の行動 ④看護管理上の問題・課題への対応に適用できる問題解決思考技術 : 論理的考え方の枠組み構築・事実の収集力の訓練法、実践事例を用いた展開	
3	ものの見方、考え方 看護管理の基礎となる「知識体系 (Be の科学)」と臨床における意思決定 (Do の科学)」の論理構造	草刈淳子
4	日本における看護管理の発展過程—文献を通して— ①反動期の文献に探る看護婦 (師) 問題の根源 ②日本における「看護師の役割」への期待の変遷 ③日本の医療・看護に求められていること	
5	日本における看護管理の発展過程—看護サービス管理に焦点を当てて— ①看護サービス理念の構成要素 ②看護サービスの質保証のための概念モデル、実践への適用	草刈淳子
6	医療業務と責任の再配分—アメリカのヘルスシステムの変遷、評価、日本への適用— ①アメリカの Nurse Practitioner にみる医療業務と責任の再配分 ②看護の機能と適正配分	
7	マネジメント理論 ①マネジメント理論の基礎となった経営管理理論の変遷 ②動機づけ理論・目標管理に焦点を当てた事例への適用 ③管理プロセスと PDCA サイクルのまわし方	住吉蝶子
8	看護提供システム ① かれた状況における高いアウトカムをめざした看護提供システム選択のための条件整備	
9	専門看護師・看護管理者に求められる能力 ①テクニカルスキル、コンセプチュアルスキル、ヒューマンスキル、ビジョナルスキル	住吉蝶子

10	看護現場における質保証の方略 ①実践現場のリスクマネジメント：組織事故の理論における事故の進展と調査の過程	住吉蝶子
11	②医療における質保証、評価の歴史：JCAHO、ドナベディアンの枠組み、JCQHC	
12	③看護サービスの質保証・評価：ドナベディアンの質評価の側面「構造・過程・結果」の適用	
13	看護管理の課題と将来展望—文献を通して— ①高度先進技術の中の看護の本質	草刈淳子
14	②看護師の役割についての社会学的分析	
15	看護の変革、フィールドへの適用を探る ①本授業で学修した諸理論、及び本学の理念、特に「チーム医療構築」を基盤に、看護サービスの質向上を中核とした改善・変革を起す高度専門職の管理活動について検討する	住吉蝶子

成績評価方法：出席状況（20%）、レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）を総合して評価する。

参 考 書：

- 1) Dee Ann Gillies. 矢野正子監修，看護管理—システムアプローチ—，へるす出版，2000
- 2) 草刈淳子，日本における「看護師の役割」への期待の変遷，インターナショナルナーシングレビュー33(1)，2010
- 3) 草刈淳子，日本の医療・看護に求められていること—いま，あらためて看護が大きく変革すべきとき，看護管理，20(1)，2010
- 4) Stephen P. Robbins 著，高木晴夫訳，[新版] 組織行動のマネジメント，ダイヤモンド社，2009
- 5) 飯久保廣嗣：問題解決の思考技術，日経ビジネス文庫，2008.
- 6) James Reason 著，塩見弘監訳，組織事故—起こるべくして起こる事故からの脱出—，日科技連，2001
- 7) 日本看護歴史学会編集：日本の看護 120 年（歴史をつくるあなたへ），日本看護協会出版会 2008.
- 8) 保助看法 60 年史編纂委員会編：保助看法 60 年史—看護行政の歩みと看護の発展，日本看護協会出版会，2009.

参考文献については適宜提示する。

受講上の注意：開講時に伝える。

科目名 : 看護管理学特論Ⅱ (看護組織論)	開講学年 : 1年次
英文名 : Development of Advanced Nursing System	開講学期 : 前期
担当教員 : 住吉蝶子(科目責任者)、青木和恵	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 組織論および組織行動のマネジメントの考えに基づき、現在行われている実践現場の看護管理過程を評価すると共に、看護の質向上および効果的・効率的な看護管理のための方略を探究する。また、保健医療福祉における組織デザイン、組織の協働と連携(組織の中の個人と集団も含む)、意思決定と権限委譲、リーダーシップと信頼の構築についても教授し、看護管理の実践への着実な適用のための訓練について検討する。

授業の進め方 : 講義、討議、事例検討、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	組織論と組織開発	住吉蝶子
2		
3	ビジョン、変革する組織と組織デザイン論	青木和恵
4		
5	組織デザインの実際	住吉蝶子
6		
7	新しいリーダーシップ、トップマネージャーになる条件	青木和恵
8		
9	意思決定の過程と権限委譲	住吉蝶子
10		
11		
12		
13	組織の協働と連携	住吉蝶子
14		
15	組織のビジョンと人材管理	住吉蝶子

成績評価方法 : 出席状況(20%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)を総合して評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 看護管理学特論Ⅲ (看護情報管理学概論)	開講学年 : 1年次
英文名 : Nursing Informatics	開講学期 : 後期
担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)、長谷川敏彦、水主いづみ	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 情報の概念を示し、情報システムの保健医療福祉への活用について教授する。看護の質評価や看護研究においては、客観的な情報収集及び分析能力が求められる。これらに関する基本的な知識と技術を教授し、看護情報管理学の研究が看護の質向上や政策に貢献することについて論じる。

授業の進め方 : 講義、PCを用いたデータベース作成、プレゼンテーション、討議、文献講読

授業計画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1	情報の概念、情報システムの保健医療福祉への活用	住吉蝶子
2	看護情報管理学と看護サービス提供システム	住吉蝶子
3		
4	看護情報活用論1 (個人の課題に基づいて) ・看護における事象のデータ化 ・データベース作成 ・客観的分析法	水主いづみ
5		
6		
7		
8	看護情報活用論2 (個人の課題に基づいて) ・アウトカムの看護への還元方法	住吉蝶子
9		
10	看護労働市場の分析 医療連携のためのネットワーク構築事例	長谷川敏彦
11		
12		
13		
14	看護情報管理学の研究と政策	住吉蝶子
15		

成績評価方法 : 出席状況 (20%)、レポート (50%)、プレゼンテーション (30%) を総合して評価する。

参 考 書 : 1) 角田由佳 : 看護師の働き方を経済学から読み解く : 看護のポリティカル・エコノミー、医学書院、2007。
2) 井部俊子・中西睦子監修 : 看護管理学習テキスト 第5巻 看護情報管理論、日本看護協会出版会、2004。その他の参考書及び文献は、事前に指定・配布する。

受講上の注意 : 開講時に伝える。

科目名 : 看護管理学演習 I (人材資源活用論) 英文名 : Seminar/Development in Advanced Nursing Human Resource 担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)	開講学年 : 1年次 開講学期 : 後期 単位数 : 2単位 開講形態 : 演習
--	---

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 組織の理論、経営目標を達成するための人材の確保、育成、活用等、人材資源管理について探究する。
既習の理論を活用して現状分析をした後、戦略的な人材資源活用計画について探究する。

授業の進め方 : 講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	新しい経営、管理の概念	住吉蝶子
2		
3	専門職業人としてのキャリア形成、クリニカルラダー、問題解決思考法	住吉蝶子
4		
5		
6		
7	最良の管理能力 ①コーチング	住吉蝶子
8		
9		
10		
11	最良の管理能力 ②リスク管理	住吉蝶子
12		
13		
14		
15		
16		
17	看護師への教育・育成プログラムの実際と評価	住吉蝶子
18		
19		
20		
21	人的資源管理	住吉蝶子
22		

23	Inter-professional Education と看護管理	住吉蝶子
24		
25	戦略的な人材活用計画 ー所属する組織（フィールド）の現状分析と課題の明確化ー	住吉蝶子
26		
27		
28		
29		
30		

成績評価方法：出席状況(20%)、レポート(40%)、討議参加度(20%)、プレゼンテーション(20%)を総合して評価する。討議参加度では、Assertion能力、Briefing能力を評価する。

参 考 書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：開講時に伝える。

科目名 : 看護管理学演習Ⅱ (看護の質向上評価システム)	開講学年 : 1年次
英文名 : Seminar/Quality Management in Nursing	開講学期 : 後期
担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 看護の質保証と評価・改善を、医療の安全管理と満足度 (患者と看護師及び共に働く医療従事者) の視点から探究する。マネジメント理論である「フィッシュ哲学」を適用し看護の質を向上させている東京慈恵会医科大学附属病院をフィールドにした演習を行う。また、看護の質管理マネージャーの役割と活動内容を理解するため、プロビデンス病院(米国、ワシントンDC)をフィールドとした演習も行う。

授業の進め方 : ・ 討議、文献講読、プレゼンテーション、シャドーナース (東京慈恵会医科大学附属病院、アメリカプロビデンス病院)
・ ゲストスピーカーとして東京慈恵会医科大学附属病院看護部スタッフ、プロビデンス病院看護部スタッフを迎える。

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護の質保証と評価	住吉蝶子
2	医療看護のリスクマネジメントの現状	住吉蝶子
3		
4		
5	リスクマネジメント活動	住吉蝶子
6		
7	患者と組織にとっての効果的な安全管理	住吉蝶子
8		
9		
10		
11		
12		
13	看護の質評価と改善 : 安全管理の視点から	住吉蝶子
14		
15	看護の質向上と「フィッシュ哲学」 (東京慈恵会医科大学附属病院)	住吉蝶子
16		
17		
18		

19	米国における看護の質評価の基準	住吉蝶子
20		
21	米国プロビデンス病院における質管理マネージャーの役割と活動 (Providence Hospital, Washington D.C.)	住吉蝶子
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29	米国プロビデンス病院の質管理プログラムの評価と日本への適用 (Providence Hospital, Washington D.C.)	住吉蝶子
30		

成績評価方法：出席状況(20%)、レポート(40%)、討議参加度(20%)、プレゼンテーション(20%)を総合して評価する。
討議参加度では、Assertion能力、Briefing能力を評価する。

参 考 書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：米国プロビデンス病院での研修は春季に行う。

科目名 : 看護管理学演習Ⅲ (看護政策アセスメント)	開講学年 : 2年次
英文名 : Seminar/Nursing Policy	開講学期 : 前期
担当教員 : 住吉蝶子 (科目責任者)、石田昌宏	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 看護管理学分野

授業概要 : 看護には、専門職としての立場から看護に関わる政策課題を明らかにし、政策への提言を行うことが求められている。医療福祉政策の動向を踏まえ、看護政策の持つ意味と仕組みを教授する。さらに、看護政策の立案過程を教授し、現在の看護制度の課題と提言について探究する。

授業の進め方 : 講義、討議、文献講読、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	看護の発展と看護制度 オリエンテーション (演習の目標・内容・進め方)	住吉蝶子
2		
3	看護制度の変遷 (看護に関わる法律制定の背景) 1 ・保健師助産師看護師法の制定まで	住吉蝶子
4		
5	看護制度の変遷 (看護に関わる法律制定の背景) 2 ・保健師助産師看護師法の制定と改正の経緯	住吉蝶子
6		
7		
8		
9		
10		
11	看護制度の変遷 (看護に関わる法律制定の背景) 3 ・看護師等の人材確保の促進に関する法	住吉蝶子
12		
13		
14		
15	政策過程論 1 ・政策過程と政治過程	住吉蝶子
16		
17	政策過程論 2 ・看護職と政策との関係	住吉蝶子
18		
19		
20		

21	政策立案の過程、看護専門職団体と政策立案との関係（事例）	石田昌宏
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29	看護制度の課題と提言	住吉蝶子
30		

成績評価方法：出席状況(20%)、レポート(40%)、討議参加度(20%)、プレゼンテーション(20%)を総合して評価する。討議参加度では、Assertion能力、Briefing能力を評価する。

参 考 書：1) 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト 第7巻 看護制度・政策論，日本看護協会出版会，2004.
その他の参考書及び文献は、事前に指定・配布する。

受講上の注意：開講時に伝える。

科目名 : 母子健康看護学特論 I (女性のライフステージと健康課題: ジェンダー学を含む)	開講学年: 1年次
英文名 : Advanced Women's Health Nursing	開講学期: 前期
担当教員: 茅島江子 (科目責任者)	単位数: 2単位
	開講形態: 講義

科目区分: 母子健康看護学分野

授業概要: 女性のライフステージ全般にわたるリプロヘルスケアの理論と実践について教授し、新たな援助方法を開発するための研究方法を探究する。思春期から更年期までの心身の特徴や各時期に生じやすい健康問題、健康問題の予防及び健康問題に対する援助に関する理論と実践について教授し、リプロヘルスケアを発展させるための援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。また、社会・文化的な性としてのジェンダーの視点から、女性の健康問題との関連を論じ、ジェンダー・センシティブな援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。

授業の進め方: 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画: (1回は90分)

回	内容	担当者
1	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と女性の健康	茅島江子
2	セクシュアルヘルスの概念と女性の健康	茅島江子
3	ジェンダーの概念と女性の健康	茅島江子
4	思春期の健康問題と看護 (月経異常、人工妊娠中絶)	茅島江子
5	思春期のセクシュアリティと看護 (性行動、性教育、性同一性障害)	茅島江子
6	成熟期の健康問題と看護 (性感染症、生殖補助医療)	茅島江子
7	成熟期のセクシュアリティと看護 (セックスレス、性機能障害、家族計画)	茅島江子
8	更年期の健康問題と看護 (更年期障害、ヘルスプロモーション)	茅島江子
9	更年期のセクシュアリティと看護 (性機能障害、セックスカウンセリング)	茅島江子
10	性暴力と看護	茅島江子
11	生殖補助医療と看護	茅島江子
12	女性の健康に関する現状と動向	茅島江子
13	女性への健康政策	茅島江子
14	女性の健康支援と地域連携	茅島江子
15	生命倫理と看護	茅島江子

成績評価方法: 出席状況 30%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 40%で評価する。

- 参考書: 1) 吉沢豊予子編: 女性生涯看護学—リプロダクティブヘルスとジェンダーの視点から—、真興交易 (株)、医書出版部、2004。
 2) ナンシー・F・ウッズ編: ヒューマン・セクシュアリティ ヘルスケア篇、日本看護協会出版会、1993。
 3) ナンシー・F・ウッズ編: ヒューマン・セクシュアリティ 臨床看護篇、日本看護協会出版会、1993。
 4) 日本性科学会監修: セックス・カウンセリング入門改訂第2版、金原出版、2005。

受講上の注意: 事前に国内外の研究文献、セクシュアルヘルスに関する資料により基本的事項をおさえるとともに、必要時、性の健康問題に関する支援システムの実践現場に出向き、支援者および利用者の声に耳を傾け、実際からの学びを大切にしながら自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名 : 母子健康看護学特論Ⅱ (母子相互作用・成長発達・家族看護に関する理論) 英文名 : Advanced Women's Health & Child Development 担当教員 : 茅島江子 (科目責任者)、濱中喜代、伊藤文之、山崎あけみ	開講学年 : 1年次 開講学期 : 前期 単位数 : 2単位 開講形態 : 講義
---	---

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業概要 : 母子の健康支援のための基礎的な理論である母子相互作用、母性・父性の形成、成長発達理論及び家族看護システム論等について教授し、母子相互作用を促進する援助方法及び家族機能を有効に働かせ、子どもの健全な成長発達を促す援助方法の開発に向けて、研究方法を探究する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	周産期・子育て期における母子相互作用	茅島江子
2		
3	周産期・子育て期における母性・父性の形成過程と支援の在り方	茅島江子
4		
5	成長発達の理論	伊藤文之
6		
7	家族看護システム論と支援の在り方	濱中喜代
8		
9	胎児期・新生児期にある子どもの健全な成長発達を促す援助方法	伊藤文之
10	乳・幼児期にある子どもの健全な成長発達を促す援助方法	濱中喜代
11	学童期にある子どもの健全な成長発達を促す援助方法	濱中喜代
12	思春期にある子どもの健全な成長発達を促す援助方法	伊藤文之
13	家族看護学における family as unit of analysis を学ぶ	山崎あけみ
14	Family as unit of analysis を活かした形成期家族への援助法	山崎あけみ
15	Family as unit of analysis を活かした形成期家族への研究方法	山崎あけみ

成績評価方法 : 出席状況 30%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 40% で評価する。

- 参 考 書 :
- 1) 服部洋子 : 生涯人間発達論. 医学書院, 東京, 2000.
 - 2) 小林奈美 : 家族看護論. 医歯薬出版株式会社, 東京, 2006.
 - 3) 濱中喜代 : 健常児の成長と発達. 坂田三允編, 精神看護エクスペール 12 子どもの精神看護, 中山書店, 東京, 2005, pp20.
 - 4) 雑誌「教育と医学」「小児看護」「そだちの科学」.
 - 5) 学術雑誌「日本小児看護学会誌」「育療」等.

受講上の注意 : 事前に国内外の研究文献を検索し、自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名 : 母子健康看護学特論Ⅲ (母子支援に関する行政システム)	開講学年 : 1年次
英文名 : Social System for Women's Health & Child Health	開講学期 : 後期
担当教員 : 茅島江子 (科目責任者)、濱中喜代、伊藤文之、福島富士子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業概要 : 地域で子育てをする母子を支援するためには、保健・医療・福祉の連携が重要である。母子保健対策の一環として、地域で行われている母性保護に関する事業、育児等健康支援事業、乳幼児の育成医療、出産前小児保健指導、乳幼児発達相談指導、健やか親子 21、病(後)児保育、難病対策等の母子保健支援に関する行政システム及びその連携について教授し、その現状と課題を明らかにするとともに、母子保健を充実させるための支援システムの構築に向けて、研究方法を探究する。

授業の進め方 : 講義、討議、プレゼンテーション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	母性支援の現状と課題	茅島江子
2		
3	行政における地域母子保健政策の変遷と現状一次世代育成支援事業・活動	福島富士子
4	母子保健事業・活動の評価について	福島富士子
5	母子保健活動と地域ケアシステム— 個から家族そして地域へ	福島富士子
6	子育て支援システムの現状と課題	茅島江子
7		
8	小児の医療保障制度の現状と課題	濱中喜代
9		
10	難病の子どもと家族のための行政システムの現状と課題	濱中喜代
11		
12	慢性疾患の小児と家族の支援のための施策の現状と課題	伊藤文之
13		
14	健康障害を有する小児の医療・教育・福祉の現状と課題	伊藤文之
15		

成績評価方法 : 出席状況 30%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 40%で評価する。

- 参考書 : 1) 及川郁子監修 : 新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患療養育成指導マニュアル, 診断と治療社, 2006.
2) 加藤忠明, 西牧謙吾, 原田正平 : すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル, 東京書籍株式会社, 2005.

受講上の注意 : 事前に国内外の研究文献、行政システムや施策に関する資料により基本的事項をおさえるとともに、必要時行政システムの実践現場に出向き、支援者および利用者の声に耳を傾け、実際からの学びを大切にしながら自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名 : 母子健康看護学演習 I (母 [女性] への援助論) 英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Women's Health 担当教員 : 茅島江子 (科目責任者)	開講学年 : 1年次 開講学期 : 前期 単位数 : 2単位 開講形態 : 演習
---	---

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業概要 : 女性のライフステージ全般にわたるリプロヘルスケアの理論と実践について、それらに関する外国の研究論文を講読する。思春期から更年期までの心身の特徴や各時期に生じやすい健康問題について検討し、健康問題の予防及び健康問題に対する援助理論と実践について、その方法を探究する。

授業の進め方 : 講義、各自の研究課題に関する文献検討及び討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	リプロヘルスケアに関する研究課題と研究の動向	茅島江子
2		
3	各自の研究課題に関する先行研究のクリティーク	茅島江子
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		

23	各自の研究課題の設定と研究デザインの設計	茅島江子
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

成績評価方法：出席状況 40%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 30%で評価する。

参 考 書：必要な場合、事前に指定する。

受講上の注意：事前に国内外の研究文献を検索し、自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名 : 母子健康看護学演習Ⅱ (子ども [病児・健常児] への援助論)	開講学年 : 1年次
英文名 : Seminar/Nursing Intervention for Child Health	開講学期 : 後期
担当教員 : 濱中喜代 (科目責任者)、伊藤文之	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業概要 : 胎児期から思春期までのライフステージ全般にわたる小児期ヘルスケアの理論と実践について、それらに関する国内外の研究論文を講読する。健康児及び様々な健康問題を持つ小児とその家族に対する援助理論と実践について検討し、倫理的な側面や社会資源の活用、多職種との連携を踏まえた援助方法を探究する。

授業の進め方 : 講義及び国内外の文献の検討・討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	小児期ヘルスケアに関する研究の動向と課題	濱中喜代
2		
3		
4		
5	胎児期・新生児期における小児期ヘルスケアに関する援助理論と実践の検討	伊藤文之
6		
7		
8	乳児期・幼児期における小児期ヘルスケアに関する援助理論と実践の検討	濱中喜代
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16	学童期・思春期における小児期ヘルスケアに関する援助理論と実践の検討	濱中喜代 伊藤文之
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25	小児期ヘルスケアにおける倫理的な側面	濱中喜代
26		
27	小児期ヘルスケアにおける社会資源の活用と他職種との連携	伊藤文之
28		
29	小児期ヘルスケアの関心領域における文献の検討及び援助方法の探究	濱中喜代 伊藤文之
30		

成績評価方法：出席状況 40%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 30%で評価する。

- 参 考 書：1) 田村正徳・玉井真理子：新生児医療現場の生命倫理. MC メディカ出版, 大阪, 2005.
 2) 樋口範雄・岩田太編：生命倫理と法Ⅱ. 弘文堂, 東京, 2007.
 3) 西平直：エリクソンの人間学, 東京大学出版会, 1993.
 4) 祐宗省三他編：社会的学習理論の新展開, 金子書房, 1987.

受講上の注意：事前に国内外の研究文献を検索し、自己学習を深め、問題意識を高く持ってプレゼンテーションや討議に臨むこと。

科目名 : 母子健康看護学演習Ⅲ (母子支援システム構築) 英文名 : Seminar/Advanced Nursing Intervention for Women's Health & Child Health 担当教員 : 茅島江子 (科目責任者)、濱中喜代、伊藤文之	開講学年 : 2年次 開講学期 : 前期 単位数 : 2単位 開講形態 : 演習
---	---

科目区分 : 母子健康看護学分野

授業概要 : 母子支援に関する保健医療福祉システムについて、それらに関する国内外の研究論文を講読するとともに、実際の活動に参加して、その現状や課題について検討し、母子支援システム構築のための方法を追究する。

授業の進め方 : 講義、各自の課題に関する文献検討及びフィールドワークと討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	母性保護の現状と課題	茅島江子
2	育児支援の現状と課題	茅島江子
3	母性保護・育児支援に関する母子支援の現状と課題	茅島江子
4		
5		
6		
7	母子支援活動 : 産後ケアセンター、助産所など、地域における母子支援活動	茅島江子
8		
9		
10	参加した母子支援活動における支援システムの分析	茅島江子
11		
12	母子に対する今後の支援のあり方 (考察)	茅島江子
13		
14	母子支援の現状と課題 : 難病の子どもたちのキャンプ・親の会の活動等	濱中喜代
15		
16	母子支援活動 : 難病の子どもたちのキャンプ・親の会の活動 (フィールドワークへの参加)	濱中喜代
17		
18		
19		
20	母子支援活動における支援システム (参加したフィールドワークを分析)	濱中喜代
21	母子支援に対する今後の支援のあり方	濱中喜代

22	母子支援の現状と課題：慢性疾患・発達障害を有する小児と家族に対する支援活動	伊藤文之
23		
24	母子支援活動：慢性疾患・発達障害を有する小児と家族に対する支援活動 (フィールドワークへの参加)	伊藤文之
25		
26	参加した母子支援活動における支援システムの分析	伊藤文之
27	母子支援に対する今後の支援のあり方（考察）	伊藤文之
28	母子支援システムの構築	茅島江子 濱中喜代 伊藤文之
29		
30		

成績評価方法：出席状況 40%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 30%で評価する。

- 参 考 書：1) A・H・カッツ著 久保紘章監訳：セルフヘルプ・グループ. 岩崎学術出版, 東京, 1997
2) 及川郁子監修：新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患療養育成指導マニュアル, 診断と治療社, 2006.

受講上の注意：事前に学習を十分行い準備性を高めてフィールドワークや見学実習等に主体的に参加すること。またそこでの学びを文献等を活用して深め、プレゼンテーションや討議を通じてさらに深めること。

科目名 : 地域連携保健学特論 I (患者・家族への退院支援と医療・看護の連携協働)	開講学年 : 1年次
英文名 : Advanced Partnership in Medical Professions	開講学期 : 前期
担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)、福島道子、伊達久美子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 退院支援と在宅ケアについて、事例をもとにその対象特性に合わせた包括的な看護援助について学修する。さらに、家族支援に関する基礎理論を踏まえ、患者を支援する医療・看護における連携協働の方略について探究する。

授業の進め方 : 講義、課題についての資料作成とプレゼンテーション、ディスカッション

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	オリエンテーション	櫻井 尚子
2	医療・看護専門職の連携協働に関する理論と方法論	櫻井 尚子
3		
4	在宅・地域における患者とその家族が抱える問題とニーズ	伊達久美子
5		
6	家族機能に関する諸理論、モデルと看護実践への適応	福島 道子
7		
8	臨床における退院計画・調整と家族支援	福 道子
9		
10	退院支援および在宅ケアに関する理念と実践 (在宅での倫理的問題およびリスクマネジメントを含む)	伊達久美子
11		
12	退院支援に関する文献講読と討議	伊達久美子
13		
14	医療・看護専門職連携協働に関する文献講読と討議	伊達久美子
15		

成績評価方法 : 出席状況 10%、授業への取り組み(プレゼンテーション・ディスカッション)50%、レポート 40%を総合的に評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意 : 主体的学修態度が前提である。その他は、開講時に伝える。。

科目名 : 地域連携保健学特論Ⅱ (保健医療福祉システム制度と社会資源)	開講学年 : 1年次
英文名 : Comprehensive Social System for Patients & Patient's Family	開講学期 : 前期
担当教員 : 櫻井尚子(科目責任者)、川野雅資、嶋澤順子	単位数 : 2単位
	開講形態 : 講義

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 卓越した特定領域看護の看護実践に必要な、保健医療福祉看護に関連する政策、法律、制度の理解を深める。健康課題を持つ人とその家族を支援するための制度の活用方法と連携協働による資源創造の方法を学修する。

[必須]

日本国憲法、地域保健法、医療法、医療保険法、学校保健安全法、労働安全衛生法
子ども若者育成支援法、子ども虐待防止法、障害者基本法、障害者自立支援法、
自殺対策基本法、男女共同参画社会基本法、

[親子保健領域]

母子保健対策体系、母子保健法、児童福祉法、医療援護制度、健やか親子21、
次世代育成支援対策推進法、

[地域精神看護領域]

精神障害者の医療体系、地域精神保健対策、医療観察法、精神保健福祉法、
英国の地域精神保健看護師制度

授業の進め方 : 講義、国内外の資料・報告書・文献を調べてプレゼンテーションと討議する
・履修生の関心がある特定領域を学修する。

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	日本の保健医療行政の歴史としくみ (日本国憲法、地域保健法、医療法、医療保険法)	櫻井尚子
2	保健医療政策と看護活動 (母子保健計画/精神障害者の医療体系)	櫻井尚子
3		川野雅資
4	保健医療・看護提供体制の現状と課題 (母子保健対策体系、医療援護制度/医療観察法)	櫻井尚子
5		川野雅資
6	保健福祉制度の現状と課題 (子ども若者育成支援/精神保健福祉対策)	嶋澤順子
7		
8	地域ケアシステムとソーシャルキャピタル (子ども虐待防止対策/地域精神障害者支援)	嶋澤順子
9		
10	産業保健制度の現状 職域・地域の関連制度・社会資源と看護活動 (労働安全衛生法+男女共同参画社会基本法/自殺対策、職場復帰プログラム)	嶋澤順子
11		
12	学校保健制度の現状 地域・学校の関連制度・社会資源と連携協働 (学校保健安全法、こころの健康づくり)	櫻井尚子
13		
14	海外の地域保健医療福祉システム	川野雅資
15		

成績評価方法 : レポート 60%、プレゼンテーションと授業参加 40%を総合して評価する。

参考書 : 必要な場合、担当教員より事前に提示する。

受講上の注意 : 主体的学修態度が前提である。その他は、開講時に伝える。

科目名 : 地域連携保健学特論Ⅲ (組織マネジメントと連携協働) 英文名 : Development of Comprehensive Partnership in Medical Professions 担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)	開講学年 : 1年次 開講学期 : 後期 単位数 : 2単位 開講形態 : 講義
--	---

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 組織運営、マネジメントの理論を学修し、患者・家族、住民、職場、他職種・機関のニーズと強みを捉えて、課題解決を図るマネジメントと効果的な連携協働システム構築を目指す方法を探究する。

授業の進め方 : 講義、プレゼンテーションと討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	組織行動のマネジメント	櫻井尚子
2	マネジメントに関する理論	櫻井尚子
3		
4	組織の中の個人に関する理論と実践への適応 パートナーシップ、エンパワメント	櫻井尚子
5		
6	組織の中の集団に関する理論と実践への適応 コミュニケーション、リーダーシップ、パワー、コンフリクト	櫻井尚子
7		
8	組織システムに関する理論と実践への適応 組織構造、組織文化	櫻井尚子
9		
10	組織変革と組織開発	櫻井尚子
11		
12	組織間の連携協働システム	櫻井尚子
13		
14	保健医療福祉関係機関における組織間の連携協働の課題と対策	櫻井尚子
15		

成績評価方法 : 授業への取り組み (プレゼンテーション、討議) 60%、レポート 40%、を総合して評価する。

参考書 :

- ・スティーブンPロビンズ, 高木晴夫 (訳). 新版 組織行動のマネジメント. ダイアモンド社.
- ・PF ドラッカー, 上田惇生 (訳). エssenシャル版マネジメント基本と原則. ダイアモンド社.
- ・岩崎夏海. もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら. ダイアモンド社.
- ・レナードLベリー, ケントDセルトマン, 古川奈々子 (訳). すべてのサービスは患者のために. 日本出版貿易株式会社.

その他必要な場合は、担当教員より事前に提示する。

受講上の注意 : 主体的な学習態度が前提となる。その他は開講時に伝える。

科目名 : 地域連携保健学演習 I (患者と家族の暮らしを支える地域連携)	開講学年 : 1 年次
英文名 : Seminar/Comprehensive Medical Care in Community	開講学期 : 前期
担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)、櫻井美代子、北 素子、村嶋幸代	単位数 : 2 単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 地域連携を推進するには、生活している地域や職場の人々の営みを視野におき、課題解決に向けて連携協働することで、人々がエンパワーすることが求められる。地域や職場、組織文化を理解する方法を学修し、連携システム構築の実践方法を探究する。

授業の進め方 : 演習、講義、文献検討、見学実習、プレゼンテーション、討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	地域連携システムが求められる背景	櫻井尚子
2		
3	超高齢社会における在宅ケアシステムの実際	櫻井美代子
4		
5	地域アセスメントに関する理論	櫻井尚子
6		
7	Community as Partner モデルを用いた地域分析	櫻井尚子
8		
9	地域連携室の看護活動	櫻井尚子
10		
11	臨床における地域連携の現状と課題	櫻井尚子
12		
13	在宅ケアシステム構築の実際と課題	村嶋幸代
14		
15	Partnership Empowerment に関する理論と患者第一主義	櫻井尚子
16		
17	連携システム構築の推進要因と阻害要因	櫻井尚子
18		
19	生活理解の方法としての質的調査研究ガイド 質的研究におけるデータ収集法—インタビュー法と参加観察法 (講義) ※課題提示・・・インタビューガイドの作成 (構造化、半構造化、非構造化)	北 素子
20		
21	生活理解の方法としての質的調査研究—データ収集 インタビュー法によるデータ収集—実践・発表・グループ討議 ※課題提示・・・参加観察法についての予習	北 素子
22		

23	生活理解の方法としての質的調査研究－データ収集 参加観察法によるデータ収集－実践	北 素子
24		
25	生活理解の方法としての質的調査研究－データ収集 参加観察法によるデータ収集－発表・グループ討議 生活理解の方法としての質的調査研究－データ分析（講義） ※課題提示・・・課題データの分析（カテゴリー化）	北 素子
26		
27	生活理解の方法としての質的調査研究 データ分析1カテゴリー化－グループ討議・発表・ディスカッション ※課題提示・・・課題データの分析（構造化）	北 素子
28		
29	生活理解の方法としての質的調査研究 データ分析2構造化－グループ討議・発表・ディスカッション	北 素子
30		

成績評価方法：授業への取り組み（出席、プレゼンテーション、討議）60%、レポート40%を総合して評する。

参 考 書：

・LynneEYoung, Virginia Hayes. 高野順子, 北山秋雄（訳）. ヘルスプロモーション実践の変革－新たなる看護実践に挑む. 日本看護協会出版会.

その他必要な場合は、担当教員より提示する。

受講上の注意：主体的な学修態度が前提となる。その他は開講時に伝える。

科目名 : 地域連携保健学演習Ⅱ (パートナーシップとソーシャルキャピタル)	開講学年 : 1年次
英文名 : Seminar/Comprehensive Partnership in Medical Professions	開講学期 : 後期
担当教員 : 川野雅資 (科目責任者)、櫻井尚子、前川早苗	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 卓越した特定領域看護の看護実践に必要な、健康課題を抱える人とその家族のアセスメント及び看護の実践について理解を深め、活用できる基盤を形成する。さらに、家庭・学校・職場・地域社会の健康の保持・増進、健康の向上と疾病予防について理解を深め、患者・家族・市民を支援できる能力を養う。

学修する医療・看護の連携協働

[地域精神看護] リハビリテーション精神看護、メンタルヘルス精神看護

回復期にある精神障害者のアセスメントとケア、再発防止、精神訪問看護活動
 家族の精神保健、学校と連携した早期介入、社会復帰プログラム、うつ自殺予防、
 精神保健福祉法および障害者自立支援法に基づく施設、精神訪問看護ステーション
 健康日本 21 (心の健康づくり)

[親子保健]

問題を抱える妊産婦と子どものアセスメントとケア、うつ自殺予防、虐待予防、
 子ども虐待のアセスメントとケアと再発防止、子育て支援、ライフワークバランス、
 父親支援、女性の職場復帰と社会資源、健やか親子 21

授業の進め方 : 履修生の関心ある特定領域を各自のテーマとして学修する。

演習、講義、文献検討、見学実習、自己学習 (調査)、プレゼンテーション、討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	健康問題を抱える人の退院支援 : アセスメントとケア	川野雅資 櫻井尚子
2	地域精神 1. 回復期にある精神障害者の退院前後のアセスメントとケア	
3	2. 回復期にある精神障害者の外来でのアセスメントとケア	
4	3. 再発防止	
5	親子保健 1. 問題を抱える妊婦のアセスメントとケア	
6	2. 問題を抱える産婦と子どものアセスメントとケア	
7	3. 子ども虐待のアセスメントとケアと再発防止	川野雅資 櫻井尚子
8	健康問題を抱えて在宅で療養する患者への外来看護	
9	一次予防・二次予防・三次予防とソーシャルネットワーク	川野雅資 櫻井尚子
10		
11	家族の健康・精神保健のアセスメント	川野雅資 櫻井尚子
12		
13	家族の健康・精神保健のアセスメントと看護実践	川野雅資 櫻井尚子
14		
15	学校保健の現状と課題	前川早苗
16		

17	学校保健と臨床の連携協働	前川早苗
18		
19	訪問看護活動の実際	櫻井尚子
20		
21	地域連携システム（地域連携パス）の実際	櫻井尚子
22		
23	産業保健におけるメンタルヘルス活動	櫻井尚子
24		
25	職場との連携：うつ自殺予防、社会・職場復帰プログラム	櫻井尚子
26		
27	特定集団の保健計画の実際（メンタルヘルスを含む健康づくり）	櫻井尚子
28		
29	健康・精神保健とソーシャルキャピタル	櫻井尚子
30		

成績評価方法：事例レポート60%、授業参加態度40%を総合して評価する。

参 考 書：必要な場合、担当教員より事前に提示する。

受講上の注意：主体的な学修が前提である。その他、開講時に伝える。

科目名 : 地域連携保健学演習Ⅲ (組織マネジメントと連携システムの評価)	開講学年 : 2年次
英文名 : Seminar/Evaluation for Comprehensive Medical Care in Community	開講学期 : 前期
担当教員 : 櫻井尚子 (科目責任者)	単位数 : 2単位
	開講形態 : 演習

科目区分 : 地域連携保健学分野

授業概要 : 履修生がかかわっている看護領域の課題を取り上げて事例とする。解決に向けた組織マネジメントの方略を探索し、連携協働を計画・実施する。経過を整理し、組織行動学的な分析を行い、システム構築のプロセスを評価する。

授業の進め方 : 講義、文献検討、見学実習、プレゼンテーション、討議

授業計画 : (1回は90分)

回	内容	担当者
1	オリエンテーション	櫻井尚子
2	演習のテーマの決定、現状把握の方法	
3	演習テーマ(事例)の継時的な整理	櫻井尚子
4		
5	事例課題の明確化—プレゼンテーションと討議	櫻井尚子
6		
7	連携協働が必要な課題の抽出	櫻井尚子
8		
9	連携協働が必要な課題の現状分析と組織の限界	櫻井尚子
10		
11	連携協働が必要な課題の望ましい姿	櫻井尚子
12		
13	組織的なシステム構築のための協働者の探索	櫻井尚子
14		
15	組織的なシステム構築の実際(意図的かかわり:パートナーシップ)	櫻井尚子
16		
17	組織的なシステム構築の実際(意図的かかわり:エンパワメント)	櫻井尚子
18		
19	システム構築プロセスの検討	櫻井尚子
20		

21	システム構築のストラクチャー検討	櫻井尚子
22		
23	組織行動学的分析	櫻井尚子
24		
25	ヘルス・プロモーションの概念・理念からの分析	櫻井尚子
26		
27	連携システム構築の評価	櫻井尚子
28		
29	連携システム構築を通じてもたらされる看護の展望	櫻井尚子
30		

成績評価方法：授業への取り組み（出席、プレゼンテーション、討議）60%、レポート 40%を総合して評価する。

参 考 書：必要な場合、担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：主体的な学習態度が前提である。その他は開講時に伝える。

研 究

科目名 : 看護学特別研究 I 英文名 : Master's thesis / Nursing Research I 担当教員 : 高島尚美 柿川房子、藤野彰子 茅島江子、濱中喜代、伊藤文之 櫻井尚子、川野雅資、北 素子	開講学年 : 1年次 開講学期 : 後期 単位数 : 3単位 開講形態 : 演習
---	---

授 業 概 要 : 専門性と客観性がある研究を実施するために必須である研究計画書の作成プロセスを教授し、各自の研究テーマに基づいた研究計画書を完成させる。また、大学院生は、研究テーマに関連する学術集会に出席し最新の研究動向を把握するとともに、ディスカッションに参加し、各自の研究を発展させる機会とする。

授業の進め方 : 研究活動についてのグループ討議、文献クリティーク、個人面接、プレゼンテーション

授 業 計 画 : (1回は90分)

回数	内 容	担当者
1	研究計画書作成の内容	教学委員長
2	研究計画書作成の内容	倫理委員会委員
3	研究計画書立案のプロセス ・研究課題とテーマ ・文献検索と研究意義の明確化 ・研究デザインと方法 ・研究対象とフィールド ・研究倫理 ・計画書の作成 最新の研究動向の把握 (関連する学術集会に参加)	担当教員 全員
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43	研究計画書のプレゼンテーション	担当教員 全員
44		
45		

成績評価方法：取り組みの過程と研究計画書の完成度を総合的に評価する。

参 考 書：他、必要な場合は担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：授業日は大学院生と教員の合意により変更する場合がある。
修士論文作成要領に沿って研究を進めること。

科目名 : 看護学特別研究Ⅱ 英文名 : Master's thesis / Nursing Research Ⅱ 担当教員 : 高島尚美 柿川房子、藤野彰子 茅島江子、濱中喜代、伊藤文之 櫻井尚子、川野雅資、北 素子	開講学年 : 2年次 開講学期 : 前・後期(通年) 単位数 : 3単位 開講形態 : 演習
--	---

授 業 概 要 : 各分野の教員の指導のもとに専門性を高めた研究を行い、修士論文として完成させる。

授業の進め方 : 個人ワーク、教員および分野学生とのディスカッション、プレゼンテーション

授 業 計 画 : (1回は90分)

回	内 容	担当者
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11	研究計画書に基づいた研究実施のプロセス	
12	・研究計画書の修正	
13	・倫理委員会提出(許可)	
14	・データ収集	
15	・分析	
16	・修士論文作成	
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		

担当教員
全員

27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43	研究発表会（修士論文発表とディスカッション、その後の修士論文の修正）	担当教員 全員
44		
45		

成績評価方法：取り組みの過程と研究達成度を総合的に評価する。

参 考 書：必要な場合は担当教員より事前に指定する。

受講上の注意：授業日は大学院生と教員の合意により変更する場合がある。
修士論文作成要領に沿って研究を進めること。

シラバス (授業計画)

平成 23 年 (2011) 4 月 1 日発行

東京慈恵会医科大学大学院
医学研究科看護学専攻修士課程

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

TEL 03-3433-1111

FAX 03-5400-1285

<http://www.jikei.ac.jp>